職原鈔 下

WA 16
116
(2)

国立国会図書館　タイトル『職原抄』 請求記号 WA16-116

ガラス使用

職原鈔

頭註本

下

WA16
116
2

国立国会図書館　タイトル『職原抄』 請求記号 WA16-116

ガラス使用

官ハ弾正浩中ノ官ノ然無ニ私善ヲハ為レ善悪ヲハ為レ悪ヲ挺赤松ノ家持之弾正ハ勧善徴悪ノ本トス淡ノ御史千十八人有本朝ノ弾正ノ人ノ背衣東ノ云ニ下巻トテ下官ト不可心得大政官以下ハ省ニモ不属独立ニメ而勅使ノ肉衣朱ノ色豆蚕ニアケノ紋ハ鶴ノ丸ノ太刀左右差ス箭ハ骨ノ馬ハ尾毛ノ朱ノ色ノ着ル故ニ詠ニ源順詩ニ紫茸ハ文ノ奇朱衣ノ色ヲ是可ニ花心ニ云ニ憲臺ノ云リ卅詩ハ御史臺人愛ニ藤苑作玉ノリ如飛見レ射ハ朱色ノ着ルヤ尹ハ相當三位ノ然間弾正ノ心ニ遠ノ故ニ志ニ憲臺ニ

弾正臺　唐名御史臺

統ノ史ハ常ニ記都記ノ義ノ一ハ法ヲ明ス章ノ言ハ方ノ意ノ卅人ハカケンノヒメレニテ

職原鈔下　輔ノ官ノ編ノ入省ヨリモ挙メル官ヤ私ニ云ハ省ハ連綿トメル者ノ故上巻一列ス弾正ヲ上メル官ヤ臺ナドノ様ニ臺ノ簗テ其上ニ居テ意ノ正ス官ノ辞ハ向注所ノ如シ

憲臺又云　霜臺　明ニスルニ

五ヨリ四ツ九ツ八ツ時ニテ居テ次法ノ如ク卅官ハ何ノ意モ非違ノ而ス

御史臺　毛旬云御史ハ統ノ史ハ常ノ

御史ハ大納言ニ當ルト然ハ弾正ノ唐名トスルハ左ノ當官ニ違ノ則ハ恐テ人ノ変色故ヤ

常ノ官ノ上ナル故ニ云ヘル卅官ハ武ノ面トノ文ノ理トスル故御ノ下ニ

掌糺弾事　近代其職掌移于検非違使廳

五十三代淳和ノ天皇ノ

至中古於浩中巡検　花園ノ南ノ

猶勅之當時ハ已ニ絶メリ　時ノ官

而ノ弾正誰人カ天子ヨリ禁色ノ玉フトメス其時女姓ヨメル哥曰大空ニ照ル日ノ色シトガメテハ天ガ下ニハ誰カスムベキ

一人　相當従三位　唐名御史大夫

多任親王或ハ又納言　戦紛法故親房作之

戸籍ニ意ニ尊ク主ニ安国者誤ニ〻轉除ニ主ニ奪ニ以国ノ大利ニ者誤ニ〻猶ト々ハスケトヨムニ此スケハ
五位ニ叙助ハ六位ヤ
及ニ地下ニトハ後成卿四
代地下ニメ奉ムスルヤ
其時ノ哥曰ノカニメ
沈ミナカラニ春ミシ経テ
ヤ〻ノ雲井ノ月シミルカナ
ニツムトハ我カシムカ地
ヤトム証拠ニ殿上メ後ノ
哥曰久方ノニヘノ上ニテ
見ル月ハ天ツ星カトアメルケリ

門兵衛ハ隼人正ト同
敕云家ニハ籙ト云武
家ニハ庵篭ト云ニ又記
ヨ〻ニハ庵篭武家ニハ
ニアトムシ

負對ト云六衛府ト
左右ノ衛門左右兵衛左右ノ近衛是ハ天子ノ宿直ノ申ス官ニ
負對ト云ヒランノ付テサキハシリスルヒ四衛府ノ時ハ左右ノ
官ニ兵衛ニ頭別ナドノ任ヤアルヤウニ下官ニテハナ

宅地ヨリ下トハ京町宅地其外地子ナドシテ主ル官ニ是モ近代ハ
職ノ大夫アリ左京右京大膳修理大夫ニ職内左京大夫ニ意是ニ重職トス大膳
ノ亮ニ限リテ昔ヨリ
云イツケテサガル何
モ只ケシ所カワルコ更
ニ不知ニ

言上 奏之 勅任之官也 頭為重職
（是ハ助ニ如大補女補ニ）（天子ヨリ直ニ任スル官ニ非ニ守次任ニ官ノ類ニ行節會ニ任スル）

大弼一人 相當従四位下
唐名御史中丞兼

少弼一人 相當正五位下
唐名同上ニ

也 為頭職 近来多ハ及地下ニ為
（天子有勅任ニ）

忠 大輔當正六位上唐名侍御史
（對ニ少輔當正六位下）

大夫 同侍 従 任之 相當
（二俊アリ安陪ノ説ニハ下ニ）
左右衛門左右兵衛左右近衛ニハ指箭ノ墓ニ
近代為勅負對下司不叶理歟
（下司上云ニ）

已高之上頭職也
（差ニ折レ改富田ノ添ニハ忠ハ金ニ六位ノ伝ノ高次ニ故依テ勅）

六位 諸衛ノ志 掌ニ京中事 尚宅地
（ニハトニ又ハ数ニモ云ニ千億又兆トテ数ニ聚ニ）
（書ニ委立龍ノ甲アルニヒタキアル心シヌテ兆心ニ）

流 大唐名御史録事
（ヒダリノミヤキノツカサ）

左京職 唐名京兆尹
（サックノカミ）

又云鴻臚掌
（以下トハ土負近ノ下ニ）

下悉京職之所知也 近代移
（ヤドコロ）

大史一人 相當従四位下
（カミブ）（頭ニアタル）
唐名京兆尹

為公卿兼官

権大史一人 四位殿上人 諸大史任之 於
（コウケノケン）

諸大夫者為賞之儀
（殿上人ニ任スルシ諸大史ニ任スルハ賞ニ義ヤ）

国立国会図書館　タイトル『職原抄』　請求記号 WA16-116
ガラス使用

職ノ亮ハ（スケ）ヲサヽリヨウスケトヨム八誤ヤ

亮（スケ）　相當從五位下　五位諸大夫任之　雖六位又任之相當五位也不可准自餘頗爲重職ト

唐名京兆尹（ケイチウノカミ）

進（シン）　大　唐名京兆司録（シロク）　今三職ノ次ノ四職ノ中ニモ左京亮勝レタリ

尹（イン）

屬（サクヨク）　大　六位侍任之

尹　唐名京兆録事

東市司（トウシノツカサ）　唐名市署（シヨ）　掌市事（ツカサドル）

付左京職（サキヤウシキ）官（クワン）ノ儀（ギ）ノ官中市（シ）ノ斷（ダン）ヲ者（モノ）ヲ

正（カミ）一人　相當正六位上　諸道五位六位及隱（カクレ）ノ

唐名市令（シレイ）

主典（サクワン）代藏人（クラウド）所納（ヲサム）等（ラ）任之出

隱（カクレ）ノ人ニ可任吉キ時代ニシク者ナリ　當司ニ可任シ

佑（ゼウ）　相當從七位下　常（ツネ）ニ不任之

唐名市令（シレイ）

令史（サクワン）　唐名市録事

源氏ハサゾウトヨム

右京職（ウキヤウシキ）　同（オナジ）右京（ウキヤウ）

付右京職（ウキヤウシキ）官（クワン）

西市司（ニシノイチノツカサ）　同東市（ヒガシノイチ）

唐名竜楼（リウラウ）又云鶴禁（カクキン）

東宮（トウグウ）　唐名竜楼（リウラウ）又云銀榜（ギンバウ）ハリフダトヨム

也（ナリ）　傳学士（フガクシ）ノ為（タメ）ニ東宮（トウグウ）ノ宮（ミヤ）太夫（タイフ）以下（イカ）為坊（バウ）ノ官（クワン）ヲ太子（タイシ）ニ拘（カヽハ）リ奉教（ウケタマハリオシフル）スケトナルナリ

東宮ト八東八万物ノ始ノ春モ亦如此太子東宮ノ立テ御座アルハ四季ノ始ハ春ノ四方ノ始ハ東ノ如其是ヨリ出アツテ即位アルヘキ竜楼ハ未就位ニ皆竜九五トナラン爲ニ楼中ニ潜アルヘシ又云竜楼ハ天子ノ心ノ銀榜ハ金銀ノ二ハ人ノ宝トスル処ノ主上ノ八比金ハ太子ノ比銀ハ榜ハフタノ子トヨムヘシ榜ノ舟ハ木ノ二ツニワツタルノ如ク天子ハ万端二ツニワツタルカ如シトノ心ニ東宮ト春宮トノ二処ニアルハ何ソヤ一ツ可有二所ニアルハ不審ヘ或人推量ニ東宮トハ春ノ儲君ノ名ノ如ハ太子春宮坊ニ御座アル歟源氏ニモヨノセスハ坊ニモシワシニスヘキトシ

国立国会図書館　タイトル『職原抄』　請求記号 WA16-116

ガラス使用

春ハ四季ノ始ニ次キ東ニ繫昌ノ義ヲ祝スルナリ、而ル左右ヲ置ク、或説ニハ、上ノ東宮ヲサシテ云ヘリトハ、爰ノ春宮坊ヲ妙説ヲツケテ見ル時ハ父ノ下ノ太子ヲ指ス、ハ唐名ニ相當ルナリ

官一音未如斯

傳一人（相當）正四位上 唐名太子太傅

傳太保又有小師小傅（如天子ノ大傅ニ）

一人相當雖為正四位上（絰而三位以上ハ勅任ニ四位ナレ共此傳ハ勅任ニ）勅任官也（亡モ為陪従ニ任スル類ニアラス）

重為二公之人（大臣ヤ）兼之大納言（大政官ノ辞ヲタルノ人ノヨシ）任雖之先

前官大臣任之中（若クハ）

劍中古已来避廻也又前官大臣（一音大故御門ノ元大臣経宗公ヲヨシ）

山前太政太臣（頼實ヲ云也）非常儀（當時大政大臣ハ人傳ノ兼又ハ左モ分官傳ヲ任スヘシ）

太子ノ師ニナルヘキ大子實客トモ唐ノ白氏ハ官ノ中ニ在

菅江ノ中ニ吾ハ謂ヘル致ニ者ニ給ヒトハ（キウハツクナリトモ訓ス）春宮坊ヲ指メラレ言ヘル唐ノ代ニハ古此春宮坊ヲ詹事トモ云ヘリ

學士二人 相當従五位下 唐名太子實客（白氏ハ官ノ中ニ在）

譜第儒者有之

德者應其撰為儲君之侍讀也古今重之（太子ノ坊主師範ト云ヘルヨシ）

春宮坊 唐名春坊 唐世置詹事府統衆務（是迄唐ノ官ヲ春宮ニ置ヘルヨリヨムヘシ但シ下ニ詹事ト云ヘルヨシ）

又置左右春坊宮中事（大夫以下ノ摂関ヲ）向坊官所掌也

大夫一人 相當従四位下 唐名太子詹事或云端尹（タンイン）

執柄息之

及大臣子孫為大中納言人兼之諸大夫（大臣ノ子孫ノ大納言ニ成タル人任ヘシ）

之納言以上妄拝任之（朱雀院ノ仰ヲハ原氏坊ニモ云ヘヘキニトヲ一ヒ）

納言以上ハ爰テハ大納言ヲ以上トヲフト見タリ其故ハ諸大夫（ノ）納言ヨリ上ノ官ニハ任ジ又サルヘリ大納言ヲ許大夫極官ノ

領

権大史一人　同前　唐名注同お

之例猶不為可也

但諸大史納言有兼任

亮　相當従五位下　唐名太子少詹事　名家四位有戈人望

者任之坊中事亮一向奉行也

権亮一人　花族中少将兼之

大進一人　権三人相當従六位上　唐名詹事主簿　名家五

明句抄　唐名太子洗馬　有才人任此亮歟　不已ナラテハ不可

伝任之亡可択其人也　大進奉行宮中諸

諸司事如禁中職事仍非器用者不任之

名家五位任之亡可択其人也

少進一人　権少進相當従六位下　名家六位

任之或雖五位猶帯也

属大少　唐名詹事録事　院主典代　官史生等

中為重代者任之掌坊中雑務故也

国立国会図書館　タイトル『職原抄』　請求記号 WA16-116

ガラス使用

春宮ノ修理造進等紀之但此抄ニハ多ク此官ニモ可有四今歟其證拠ニハ平家ニハ至馬判官守国ト有リ東宮司ニ御厩ニヤ禁中左右馬寮ニ如此此外主工署ナトニ云官ニ
内ノ舎人ノ侍禁中ニハ滝口
東宮ニハ等刀隅ニハ正
北面皆一ツ
長二人二人ハ先生ト云秀
タル者ヲ云ニ連廿人ト云
廿人ノ中ニ連モアリ朝
臣其外宿称真人モア
リ又ツラナルト云義
ノ連ノ證拠ニハ
詩曰幕府紅連
千万軍他時有待好
鎮君木鳥ハ花鳥ノ
臣ト云心ヤ秀タル者
両人ト云心ニ

主膳監　唐名膳奢　私云太子膳ヲ屋ト
カニハキノツカサ　東宮ノ内膳ヲ司ニ禁中ノ如内膳ニ

一人　相當従六位下
唐名曲膳ノ即

主殿署　唐名典膳署　唐名典膳ノ
東宮ノ洒掃ヲ紀ニ如禁中掃ヲ寮主殿寮ニ

首一人　相當従六位下
唐名典設ノ即

主馬署　唐名厩牧署
是ハ禁中ノ左右馬ノ心ニ厩屋ヲ司當ナトノ心ニ

首一人　相當従六位下
唐名厩牧令

主膳者膳部之家任之歟但近代不必任
天子ノ内膳ハ大膳ノ寮ヨリ任ニ

蔵人ノ助ヲ蔵人ニハ不任
蔵人ノ如ク召ツカワル、
ニ此蔵人ト

日下ト云人ノ官位次第
日モ先キナラバ其如ク位
ノ次ニシニダサズ司ニ

春宮ニモ宿直ヲ申ス者ニ
ハ天子ノ宿直ハ滝口ガ申ス
ニ等刀ハ唐名石塔又ニ
内卒ト云音ニイム有ニ
先生ハ昔等刀廿人アリ
ナヘツク左右ニ列ス左頭
ニ長ト云イ右ノ頭ニ先生ト云ニ頼朝ノ伯父志田先生ハ任此等刀先生ニ

之内膳司即兼紀坊中ノ御膳之歟歟　主

殿主馬者重代侍等所望補也此外ノ坊中ニ
仏ノ時ヨリ始ルニテ又ルニヤ仏ノ説法

有蔵人非蔵人ト是坊中之沙汰也重代諸
更不知
吟又化史
六金身ニ
ケゴンハウ
タウ般若
ニ説真上
法華ニ
説是也

大夫被補之蔵人者勤任日下ト事如禁
蔵人ニ

中仍撰其人也　又帯刀ハ者撰重代侍ニ補ス
ル官ニハ歟
君東宮ヨ
リハナサ歟
天子ヨリ歟

補之長二人アリ近来一人ニ先生是也連ニ人
群ニ等刀ノ連ニ
此内ノ頭
タルヘシ
木歟鳥
歟トモ
忽情信卿ノ家ヲ任ニ先ニ捧ニ打奉廻ニ捧ケキニ奉ニキサニ付

伊勢斎宮ハ垂仁天皇ノ女倭姫命ト申ヨリ說メ伊勢
其ヌ来伊勢ノ斎宮ニハ天子ノ皇女備玉フ然ハ此時サシ
ノ尊支婦トメマシニヌヒシガ
イザナミノ尊早ク死玉フ
イサナキノミコトアリテ哀
ミ玉イテ黄泉ニ行玉フニ
イザナミハヤ思ナリ玉イケ
ル召取如何ニモシソロシク
ナリ玉フ是シニテニゲ玉
ヘバアトヨリ追懸玉フイ
ナギノミシナゲ玉ヘバ大
トナツテ冥途ヨリ妻ニクシサシ玉ウ故
ニ是ヲ泉津平坂ト云ヒ又ト
云心シ哥ニヨケハヤフル神
ノミヤキモコヘツベシ大宮
人ノミニクカシサニ又云ノ
悪クハキテモトヘカシケ
ハヤフル神ノイサムルミケナリノニト讃平ヨメリ又斎宮ニ
ハ本社八女帝ニテニ程ニ斎宮ノ理ヲ叶シ又伊勢
子ヲリ我氏ヲ恐申ニ依テ高嶋氏ヨリ経今伊勢ヘ不参ニ言ハ

此ノ内水鳥花右各一人

伊勢ノ齋宮寮 頭一人 無権官 相當従五位下

若諸大夫 任之

助 相當正六位下

大允 一人 私云人皇五十二代嵯峨天皇平城天皇ノ
女有知内親王ヲ立ル時為ヲ祈願差我ヲ皇女ヲ迎斎院
ヲ立ル是モ主ヲ門ヲ早ク之ヲ為ニ言ハヾリザナギイサナミノ

少允 一人

属

賀茂齋院司 毛ニ唐名一人 伊勢ノシバコシ

ハ別ニアルベシ又伊勢ノ女体ニ申時ハ垂仁天皇ニ女倭姫ノ宮仕ニ備ル玉ウトヲニ拵メ祢
道ノ秘変ナル故真実ノ処不被知ヒ自垂仁天皇人王八十三代平門ヲ早至嵯峨二十三代斎
宮四十一代其給ヒ斎宮ハ帝子内親王ト申侍ル名鳥羽院皇女ニテ御座テ代々ノ斎
宮皆有内親王ト宣ヒ故斎宮ニハ帝子内親王ト申侍ル名ナル故ニ唐名ナル故ニ葉平狩ノ使ノ時ノ斎宮ノ
ハ姫子内親王ト申スニ又寮ノ頭ト云司ヒ又輔ヲ云ヒ奉ル官人ニ申云ヒ又来伊勢国ヨリ
ル人兼ヒ云ヒ伊勢ニ陽祢ト申時ハ名ヲ陰祢ト申時ハ名ヲ使ニ拵メ祢外四部ノ
ノ記タルハ近代絶タルニ依ヒ此四部ハ伊勢ニ可有ニ

茂ノ斎院ハ有智内親王立テ初メ玉ヒ嵯峨天皇弘仁元年庚刀始立ヒ五十二代嵯峨
皇ニ御女メ有智内親王ト号スルヒ是ニ斎院ニ立玉フ意趣ハ五十代桓武天皇ノ
王子兄弟ニテニ兄ハ五十一代平城天王ニ葉良ハ同母弟ニ兄ニ平城天王ノ王子ナキテニ同母弟ノ差我天王ニ
王子アリ高岳親王ト申スハ是ニ東宮ニ立テント思食メ再拝祢ノ心アリ其義不叶差我
ノ斎宮ニニ二ス間平城都ニ不居葉良ハ中移リアツテ両方軍兵ニ川辛メ合戦有リ
差我ノ中方ノ大将ニハ大納言田村丸宰相文屋綿丸ニツカワサル平城ノ中方ニハ大将仲丸
ウメレテ冬ニ敗軍メ落飾ヒ玉フ弟世七ヒ東宮高岳親王薙髪メ為ニ弘法大師ノ弟子
真如法王是ニ出家ヒ玉フハ再ヒ仮ニ不返ヒ装ヒ其ノ
越国ニテ虎ニ食レテ死ヒ賀茂ハ主城ノ鎮守ヒハ合戦ノ時為祢尊皇女ニニ斎院ニ立玉フ
是ヒ伊勢ノ斎宮弟ル装ヒ為祢ニ賀茂ト云度ハ濃者七メ不聞川夜覚ル時

国立国会図書館　タイトル『職原抄』　請求記号 WA16-116
ガラス使用

長官 相當從五位下

次官

判官

修理職 唐名近作大夫

掌宮中修理事

主典

大史一人 相當從四位下 唐名近作大判事 四位已上任之或

亦卿任之

權大史一人 四位五位殿上人任之或諸大

史任之頗爲親摸也

亮 相當從五位下
唐名匠作少尹 諸大夫 任之 相當五位也

然而六位又任之 諸司四分中頗爲重歟
大 匠作兼イニアリ 進 少 諸寮四分ノ助ハ相當六位ノ四戟ノ亮ハ五位ニ故爲重シ

大膳左右亮修理之外冬當五位之 四分
膳 少 唐名匠作録事

然而近代ハ左右亮爲重其次修理其次
イツレヤタメノ官ナルヲ不審 大膳也 但大膳亮頗有勢 私曰許司助カ
「忘」考 「勾」勘 「乞」勘定ヲ 「芳」ヲ宇林三手ヲ東主方ヲ歩下ヘシ

勘解由使 云勾勘 是強非唐名 取義歟
カンヘトルヨシツカサ カケユル

已勘定ヲ後二日記見合ヲ点シカクルヲ勾勘トヲシ

雖諾是ハ結解勘定等ニ妻妾ヲ官ニ使ハヨシ參期四度結解自訴囚ノ受領奉納稅貢等中
三四年ニ勘定スル妻有之

堪文筆ノ付テ有物語天曆ノ宇ニ橘ノ良任ト云者地勘解由ノ次官ニ勘ヘ不成給ケレバ奉恨橘ノ清ト云者ヲ憑テ申非ヲ天子ニ奉ル時ニ内裏炎焼有テ
終ニ勘ヘ不成給ケレバ奉恨橘ノ清ト云者ヲ憑テ申非ヲ天子ニ奉ル時ニ内裏炎焼有テ
悉ク和漢ノ重宝物金銀珠玉大失シ玉ケルニソレヨリハ向ケ玉ハズ長任ガ申状ヲバ向アルトシモ又花ヤカナルニ文章明ニ文筆ニ達シ文章モ八文筆ナル故ニヤラン

長官 相當從四位下 四位已上任之 多者

參議二三位任之

名家ノ五位任之 頗爲顯

次官 相當從五位下 名家ノ五位任之 頗爲顯
ジクワン 助ス

官仍一向地下諸大夫等不任之

判官 相當從六位下 六位ノ侍任之 但郡堪右
ハンクワン 判ヤ 筆シ

筆者 於望任也 爲顯職故九顯職者無指
筆ニ者ニ於望任ル也 爲ニ顯職外記ノ官史式部 大政ニ式ニ是ヲ押出メ二省ノ遂ト云 花右大政官ノ文書ヲ司ニ 上ノ注ニ見タリ

事輩拜任無念後也 顯職外記ノ官史式部
ウ ハイ フム

国立国会図書館　タイトル『職原抄』　請求記号 WA16-116
ガラス使用

吾朝人王四十三代元明天皇和銅三年ニ初鋳銭シ即其ノ年ニ元明
四シ皇女シ

東大寺 興福寺 和州山
科ニアリ 天子勅アッテ
奈良ニ移サルヽ所ノ
モ山科寺ニアリ 此官ハ
西寺ノ条ニ委シク記ス
可シ

南ノ大学寮ノ南勧
学院シ是藤氏ノ学文
所シ此勧学ノ二ツ当
ノ南ニシ徒ト
ハ大学寮東西
京ノ曲ニアルヘシ

主典 相当従七位下

鋳銭司 近代常ニ不任之可任者ハ(官外記諸大弁ノ外記ヘ)

道ノ中当ニ其ノ仁ニ耿 長官 次官 判官

主典

修理職 (内裏十二門ノ敗壊ヲ修理スルヲ司ル又王城大社ノ修理造進司知ル)

修理宮城使 左 弁官兼之ル多者 右 中弁兼任也 (頭ニ當ル)

(ハ陽明門ノ守護奉行ヽ)

門猟雖為顕官於今者不及沙汰ニ

民部蔫弾ヲ忠勤解由ノ判官等也 左右衛

七十二代白河法皇ヽ
ノ時鴨川ノ水ニ出テ洛中
ノ損ス其時此官ヲ置ル
水ノセキ奉行シ法皇ノ
ミ丸カ心ニ背者ヲ山ノ法
加ヘ茂川ヽ水双六ノ
ニヲ作ヽ

(一務ヤ外記ノ下司官務史生ヲ主ヽ)

判官 官史常ニ(大政大ノ中史生官掌ヽ) 主典

兼任ヽ

造寺使 東大寺 興福寺 長官

東大寺 (或ハ有ヽ) 興福寺 (行基開山ヽ且那ハ聖武天皇ヽ)

主典

史 多ハ兼之 (外記ノ下ノ左大史之ヽ文伝史官ハ人ヽ中小槻氏為ニ吏ト行官中ノ)

防鴨河使 (ハ郡ヨリノ奏者ヲ司ルヽ又藤氏ノ弁ノ)

判官 東大寺 (或ハヨブ時ハ造東大ノ長吏造興福ノ長吏ヽ)

兼任之 (ハ淀海五ヽ建立ヽ)

主典

已上 除目ニ任之 春秋ノ除目ニ悉ク載大間ヽ也 (舎人冬ノ心ヽ)

(除目進新ヽ 以上除目ニ任ル者ハ何モ指ニ大間トハ除目ノ欠ノ帳ニ)

外記録ル弁官ノ取ル大間ニ也 (廃ヲ記タル書ク其アキタル者ヲ大間ヨリ外記書抜録メ取事ナリ)

(此ハ官位ノ帳ヽ内裏有ヽ外記ヨリ之新官之人ヲハ大間ニ綴官之人ヲハ削ヽ)

国立国会図書館　タイトル『職原抄』　請求記号 WA16-116

ガラス使用

施薬院使 醫道四位已下任之
施薬院本ハ檜白ノ醫者ヲ聖武天王ノ石キ光明皇后始テ置施薬院ト
判官 主典 田寺ノ二所ノ給天下貧困鰥寡孤独ノ病ノ者ヲ哀ヒ
不雅ヨリ大納言頼孝ノ方ノ薬醫ノ頭トカニレタリ家ヲ
戴除目ノ宣旨ニ
宣下官
今ハ天子ヨリ一ノ
サレ治天下ノ公民
ヲ如ク赤子ノ
ヲ哀ヒ
摂家ニ付属メ摂家ノ薬醫ニ
侍ノ職 従古藤氏長者宣也 近代勅ノ補欽但不
挨非遠使 此ノ云ニ使ノ廳ニ於
青丸十三代相武三子ニ
淳和天皇御字天長年中初置之異朝ニモ
大納言
禅ノ人ノ
知ルヘキ
ノ豪ノ恥
辱ニ
挨ノ廳ト不可
宣下官ノ字ノ心ハ遠君者ヲ誡ニ治ルトノ心ニ
廳ト斗可心得其故
挨ノ二ハ必左右ノ衛門
兵ノ仗スルヲ故ニ文ナ
ドニ看時挨ノ剋當ト
不可看廷尉ノ剋當ト可看此官ノ四分ハ何モ廷尉ノ付テ看ヲ又喚スルニ

異朝ニハ大司寇大理本朝ニハ刑部省使廳看ニ位署座配ヲ類挨ル遠使ヲ四字ヲ不看
ヲ無然ヲ細不知自古来看流例ヲ又不看ヲ心ハ依大官不看人知ヲシ其證拠ニハ其ノ
処ニ主席ト看ヲ又詩
國ノ神社ニハ伊勢ニハ額不
ヤ先ル二伊勢ニハ額不
ヲ言不ヲ尺人已知ヘ

掛田唐廬ノ代魚
重ニ職昔唐廬ノ代魚
礼ニ官之日大司寇
理寺本朝ニ又ハ刑部省為乳判之官天長
周礼ニハ大理ヲ司寇トスルヲ唐朝ニハ大理寺也但別ノ外右
年中准唐朝置使廳蓋是大理寺也但別ノ外右
衛門左衛門ヲ計ニ唐朝ニ
當ヨリ下ヲ為宣下職ヲ衛府之人補之ニ又書
廷尉別當大理ト看ヲ夫ヨリ勅ヲ使廳奉受別當宣ナリ
伝置之時不書ニ職ノ号是流例也又
重スルヲ同天子ヲ勅ニ
宣者即廳宣也古来被准ニ勅宣仍天下ニ重

参議ノ換ニ任メラルヘキ時中納言ノ闕ニテアラハ則是ニ任ス中納言モ同ノ大理ニ可任ヤ

議ノ大理逢納言将参ニリノ大理ヲナハ納言ニハ上ラザルニ其外ノ上首参ニ著ハ納言ニハ上リ不得ヤ去程ニ定家ノ官位ヒキ、故ニ述懐メヨメリ

相扱ヤメヅケ鳥モ我ガゴトノコヘ行ノ人ニナシヤナクラン

（謂ニ四字ハ私ニ七位ノ外ニツモ三ツモ有位ノ人ニテハナラス）

天子親近奉公シ人ヘシ

近習容儀富有ニ曰ヒ有ニ家ニ事歟又昔者諸大夫不任之而頼卿初任之其後連綿（七位ノ外藝アルヘシ）

欤参議大理者遇納言闕之時必任之上（諸大夫ヨリ大理ヲ遙ノ上ニ大理ハ参ニ一ハ人ノ上ニ）

首参議納雖為英雄不相争事也但参議（一ハ三家公卿ノ英雄トス）

大弁者労勤等同仍或同時叙用或牙有（一ノ大理ト労勤同カ同時ニ登ス）

超越之例是可依労之深浅歟又参議中

将労勤久者自相争之哉而近代ハ別當

（連綿ハ自是ニ）

左右ハ佐トハ言ハ擬ニ使佗ニハ何ノ官ヨリモ任スルトモ佐ヨリ成ルトモ證拠ヲ明ヤ

佐ニ成心ハ使ノ宣旨シカ蒙テ廷尉佐トハ是ニ余ニ不言尉志モ何モ如此ニ

諸家ハ親王摂家大政大臣大将軍ヤ

権佐シサシテ云ニケ字ニヤノ左右ニ

ふ及申廷尉佐ニ権佐モ辞退ニナルトモノ心ニ

為其職也　佐二人　右　（私ニ云ニ廷尉佐）

為左右衛門権佐者蒙使宣旨正佐為廷（一ノ宣旨ハ使廳ノ宣旨ニ天子ノ宣旨ニアラス）

尉之例上古有中少将蒙宣旨

職ノ也昔ハ者廷尉佐ハ着大理廳屋中言ヨリ来ル

不着之於使廳政者佐ハ下着行也

之例ル廷尉佐者名家譜第之中清撰之（一ノ中ヲ撰テ佐ニ右衛門権佐而右任廷尉佐ニ）

（一ノ佐廳屋ヘハ九ヘクモイリ換ヨリ十廿七ヨリ佐十程ヤウク参ル必ス廳屋ハ大理ノ政ニテ云ニ上ハ佐已下ノ尉ナドガツキ行イツカニセ）

国立国会図書館　タイトル『職原抄』 請求記号 WA16-116

ガラス使用

尉ニツリコス　私ニ廷尉ノ尉ニ義通ヘ
ニ換ー五位刑官ニ推ヤメ刑官ト云ハ廷尉ノ尉ヤ
ニ諸官尉ハ科官ナレ共普通ニ刑官ト云ハ當官ノ尉ニ義通ヘ
補ニヨヲス之ニ刑官ト左大尉二人右大尉二人左右
サノ尉テウハ近代貢数不ニ定ニ明法道儒ニ委任スル之ニ上ニ
不限何ノ家ヨリモ任スルヤ
サカノウヘナレヒヨミ曲ニヘトヨムヘ
言ヘ其流不ニ一中言ヘ来坂上ニ中原ノ両家為ニ
衛府ヤ言ハ小尉ニハ衛門ガ任スルトヨム心ヘ
法ッ家ク委任スル之ニ於ニ少尉者ニ追補ノ之ニ輩ラ各ニ任スル之ニ
明法道ヘ
至ニ大尉者ニ多分明法道ノ所ニ任ス也ニ但ニ殿上人ノ
不ニ明法道ニ任ス大尉ニ任ヘ
蔵人為ル廷尉者ニ間ニ任ス大尉ニ追補者武士重
代ル者ニ并ニ諸家ノカノ格勅中ニ殊ニ撰重代ノ器量ノ武ニ
真實ノヘ言ハ犯人ヲ追捕ヘカヲ
也真實追補ニ犯人ノ尉ニ
関ニ其賞ヲ者希ニ事欠ニ非ニ明ニ
法ニ而補ニ之ニ称ス追補ト是也俗ノ之所ニ云ニ傳ル也又
源平武士雖ニ諸大夫ニ多ク補ニ之ニ大夫尉ニ源義
経者剰ヘ為ニ暴悪ノ諸大夫ノ家昇殿ハ云ニ
伝ニ時多者去ル之ニ明法道ハ者必叙ニ
叙ニ位猶廷尉ヲ常ニ
廷尉ノ大尉ニ
依ニ殊ニ恩ニ令ニ叙ニ尚遠ニ旧ニ
不ニ依ニ恩ニ有ニ元ニ
格勅ハ安保ノ説ニハ宿老ト云ヘ富田ノ説ニハ健児童格勅ハ親王家摂家大臣家将
軍家々ノ家務戦ヲ持ヲ云ヘ格ハ法ヘ言ハ其家ノ法度ヲ勅ハ心ヘ今モ格勅ト下ニ
ト前ニ之ヲ通ヘ
大夫ノ尉ト腰越ニ申
状ニ云義経補ニ任五位ノ
尉ニヘ多ク當家ノ面目
ト重ル何ノ変如ヘ
ノ一リ義経ハ換ー
ノ五位ニ叙スル間
大夫尉トヘ云ヘ尉ハ換ー
尉ヘ大夫ハ五位ノ唐名
ヤ云卿ノ子元官ナルヲ
大夫ト推ヤメヘ云ヘ公卿
生昌ヘハ五位ヘ故大夫
トヘ云ヘ

国立国会図書館　タイトル『職原抄』 請求記号 WA16-116
ガラス使用

大理ニハ衛門兵衛ガ可任ト而ルニ二人ノ内衛門ニテモ兵衛ニテモ大理ニ任スレバ一人欠ク何レ衛門兵衛ハ禁中ニテモナクテ不叶ガ為ニ別ノ人ヲ衛門兵衛ノ欠ルニ任スルナリ

明法道是ニテハ按ニ本ノ如シト宣旨ヲ蒙リ其ニ依テ叙留スト云是ハ生得ニアメルニ依叙留スルト其ノ外是ハ殊ノ外ノ恩賞ニテ叙留スル者ヤ近代毎人叙留スルニハ遠ク旧例ニ

右衛門ト云ハ姓ノ名ヲ右ノ尉ニナルハ必ス衛門右ノ門尉カ上テナルヤ大理者必ス衛門カ兵衛ヲカ兼ルヤ時ニ依テナリコノ尉ニハ衛門ノ尉カ上テナリ志ニモ衛門ノ志カ兼志トナル

（右衛門尉左右ノ大尉ヤ）

志 サクワン

右大一口 右 サ一

私ニ廷尉志トニテリ

明法道ノ輩六位ノ時任ス

也非成業ノ輩ハ（二説アリ次ニ又転任ス）

富田流ニ兵衛ヲ指ヤ

主典代 廳官大政官ノ史生蔵人ノ所ノ出納諸

（院ノ廳官トハ院ノ別當ノ外佑尉志ニハ必ス衛門カ任スルニ兵衛ヲカ任スルニハ避ル）

（其右廷尉ノ志ニ任スルハ使廳ノ宣旨ヲ蒙ルニ）

衛門志ニ耶蒙使宣旨ヲ蒙ルニ

（佑ハ別當ノ外佑尉志ニハ必ス衛門ガ任スルニ兵衛ヲカ任スルニハ避ル）

（衛門兵衛ガ欠ケバ大理ニナルニモ）

衛門兵衛依闕事ニ也佐尉志必ス衛門

理者衛門兵衛ノ欠ルニ任スル例ニテ

（廷尉ノ左右ノ大尉ヤ）

例乎 又左右ノ尉者必左右衛門也至大ニハ衛門兵衛任ス

（別當ニ別當ノ大尉ヤ）

（院ノ廳官トハ院ノ次第ニ文轉任ス次第ニ轉任スルニ）

（院ノ廳官人ノ名ニ下司ニ上ノ格勅ノ如ク者ニ）

家ノ下司ニ中譜第器用者先ツ任ス右衛門府生蒙使宣旨ヤ武勇家并追補軍ニ不任ト云ヘ共志者奉行使廳訴ノ事之故ニ當道ノ為其撰此号ス道ノ志也

（武方ナドニ道ノ不達ノ人ヲ叙留スル例ニ）

（明法道ヨリ任スル故ニ明法道ノ廷尉ノ志トヨシ）

府生 右 府生者非ス奏任之官ニ仍府ノ督ノ列ニ

（如此器用又万端ニ達シタル人先ツ左右衛門カ兵衛ヲカ欠ケ時ニ）

（ノ衛門ノ府生ニナツテ其ノ）

（右擬ニ宣旨ヲ蒙ルナリ）

授之後申下ス使ノ宣旨ヲ

彼ニシテ任府生申ス程ニ官ニハアラズ衛府ノ下司ニ故ニ衛府ノ督ハカライテ府生ニナシ其右使廳ニ宣旨ヲ申下ス

或抄ニ云フゲウジトヨムシ其故ハ兼載宰相殿ニ伊勢物語ヲ読玉フニフゲウジトヨムシトヨムシ

藤氏長者 トフヂノチヤウジヤ

右ノカナシカラヌ事ヲ

藤氏ハ三十九代天智ノ御時鎌足内大臣ヨリ始シ上表ニテ

細アリ

国立国会図書館　タイトル『職原抄』 請求記号 WA16-116

ガラス使用

花傳云有才能有威
一回ノ長清ト有賊祿
名云ヘル長澄ト云

蒙攝政関白ノ詔ヲ之人為其ノ仁仍別不及
宣下也但宇治左大臣頼長公非攝関
藤氏ノ長者ヲ為長者宣下之例初於此事ノ
前大臣有為ル長ノ旨之人仍被下宣旨云々
件学院別當
私云源氏ノ学文所ト云々

源氏長者　五十六代清和天皇才三ノ王子貞純親王始給源氏ト
非学院ノ別當計ヲ源氏ノ長者ト云又源氏ニテ大臣ニ辞ヲ乞ル人ノ云例
為ニ学院別當之人即為長者而近例為ニ学ノ別當ハ不及
宣下ニ長者ト云故ニ前大臣ハ宣下ニテ長者トナレリ

名白川ノ昭ニ七代知足院ノ関白前ノ大相国忠實公ノ子ニ宇治ノ悪佐輔ト云悪人ニ者
任攝関天下ヲカニントテ給源長者ノ号ヲ（塔川鳥羽院政三代ニ）

源氏ノ納言ト任右大臣ノ時淳和ノ
奪次人ニ於件学院者猶帯之是流例也但
大納言ニ
中ノ院ハ三帝一后具手親王ノ院村上源氏ニ花族ノ家ニ
両院別當事中院右大臣時永可付彼家ニ
中ノ院ノ院代ニ二院ニ可付属ニ
由有鳥羽院勅定云々此者他流ノ人ト雖
中ノ院ヨリ
歟ニ件学淳和両院任大臣ニ時ニ淳和院奏
右大ニ
并学ニシ大臣ニテ学ニ之ニ
源氏ノ納言ニ任右大臣ノ時淳和ノ

橘氏ハ四十五代聖武天王ノ王子左大弁葛城親王師兄卿始テ給之師兄ノ卿哥云橘ハ三廿五花サヒ其葉サヒ枝ニ霜シケトニシケキワギ作者ハ垂武氏師兄氏不定シ又常代國ヨリ平武ノ時献ニ弥菓ニ是亦師兄卿是ノ号橘氏ト改賜ニ橘氏ニ九条殿ハ藤氏ニ橘氏悉ノ九条ノ家ニ移リシ子細ハ委物語アリ保孝ノ梅言ハ橘氏ニ氏神ニ故深草ノ次テニ九条殿ニ渡リ是レ家ノ證拠ニ

學館院ノ副當　橘氏之中ニ補之ニ此号ニ長者ヲ允称氏ノ長者ト王氏源氏藤氏橘氏有リ此号ニ王氏ニハ毎尽ニ長者ヲ允称ス者注ニ言之

之藤氏者執政為其長者（摂関ノ為ニ長者ト）納言中為ル才一人也橘氏者昔橘家有昇（橘氏ハ中納言三位スルノ為ニ）納言ノ上ニ人仍為長者而其家裏微之後

雖有長者号只知學館院領訖也於氏爵者是定人（安保流ニ）學之長ヲ是定者擇其人ニ被下宣旨（諸氏ノ中ニテ叙可為長者ト藤氏ニ橘氏計ニ）也近代九条流被傳之仍他人不望之大中納言堪之橘家者屬彼家ニ（橘氏ノ系ロニ）

内豎所副當　紹内豎所ノ（童ニ摂関又ハ大納言モ補ス）一人（左大臣ニ）ハ摂関又大納言モ補之ニ人ハ只尋常ノ人ナルニ似キ如何トモフニ内豎ハ官之学習琴瑟ノ事ニ非ス又童豎殿上トテ摂関並雅ノ末ニ元服時

（言ハ所領ノフサグル計ニ）主氏源ノ藤ノ橘ノ

此官ニ三説アリ一説ニハ三種ノ神器ノ置所也又一説ニハ童豎殿上ノ学文所ニ或ハ進枕席ノ役ニ是ハ王子男子共ニ若之学習琴瑟ノ事ニ至ル所習物豎ハ僕豎トテ童ナリ

国立国会図書館　タイトル『職原抄』　請求記号 WA16-116
ガラス使用

内教坊貊哥遊女ノ夏ノ掌ル正月十四日ノ夜ニ男方ニ貊哥ヒアラレハシリ琴ヲ琴ヲ貊哥ノ舞妓五節乃妓等於此坊習ヒ其外白拍子等ノ司ニ女ノ別當ニナリテアルニ是ノ伊勢ニ女別當ト云伝ヘ之男當欤ト云女ノ妓樂ノ司ニ

内教坊（ナイキヤウバウ）別當　知（シル）女樂（ヂヨガク）事（コト）　同（オナジ）前（マヘ）
中宮ノ職等（ショクナド）知（シル）

内膳（ナイゼン）別當　知（シル）内膳司（ナイゼンシ）事（コト）　同前
私云上ノ内膳ト同ニ

御厨子所（ミヅシドコロ）別當　内藏寮（ウチクラレウ）頭（カミ）補（ホス）之（コレヲ）
天子ノ膳器等ヲ置処ニ
天子ノ糸器等ヲ置処ニ

大（オホ）哥所（ウタドコロ）別當　知（シル）大（オホ）哥（ウタ）事（コト）
イヅモヒサイバラナリヤタラリトヨミテ哥ヲ詠ニ

納言以上補之　上古（シヤウコ）ハ親王之中ニ又補之ニ
大哥所ハ出雲路催馬樂（サイバラ）青海波（セイガイハ）等ヲ奏処ニ奉行ニ哥ノウタイヤウハイツモキロトゲヤトモシハナントモ哥ニ又サイハラヤホイダスニ

記録所（キロクドコロ）
私云國家ノ是非ヲ公ニ宣候ヲテ被為記録ヲニ

開闔ハ記録所ノ公卿坐ニ時今日ハ何々ノ夏宣旨ヲ玉ハト云ハ宣旨ヲ了而如此宣旨ヲ定レリト奏スルニ

寄人（ヨリウド）ハ儒者ノ才有ル人旧規古法知レル人ヲ被寄置ニ彼ノ人々ヲ記録ノ沙汰ヲスル善悪ヲ可申ヲ判断メ候ニアツカウ者ニハ吏見者ニ定ル

宣旨（センジ）不及ニ

上卿（シヤウケイ）弁（ベン）ハ勅宣ノ奉行ニ弁ガ晉テニ

記録所ノ事行スルニ

大納言ナドシナサルハ公卿ノ上ニ

大学ノ別當ハ王子男女共ニ学問シ玉フ処ニ皇女ニ文章ニ達ル故云ヘリ

上卿（カミ）弁（ベン）併（カツ）盧（ロ）寄人（ヨリウド）已上依（ヨツ）宣旨（センジ）行（オコナフ）其事（ソノコト）但（タヾシ）弁（ベン）ハ非已當中ノ夏ノ弁ノ心ニル頭ニ當（アタル）助（スケ）ニ當（アタル）善（ヨキ）ニ悪（アシキ）ニ記録所管領（クワンリヤウ）ニ

於上卿弁者可行記録所事由被宣下（センゲ）スル人ニ

樂所（ガクショ）別當　知（シル）樂所（ガクショ）事（コト）
掌ト心ル心ニ領知スル心ニ

堪（タヘ）其道（ソノミチ）之公卿補（クギヤウホ）也
公卿賤上人習音律雅楽ヲ処ニ此別當ハ必可勝ル立音之律ニ

大學（ダイガク）ノ別當　親王（シンワウ）大臣（ダイジン）納言（ナゴン）中補（ナカニホ）之（コレヲ）近代（キンダイ）絶（タエ）テ
孚（シンフ）

国立国会図書館　タイトル『職原抄』　請求記号 WA16-116
ガラス使用

私云蔵人頭ノ若ハ唐名侍中トモ不退挙公ト心シ内侍ハ卑シク内侍ハ卑シ

蔵人所　唐名侍中

△嵯峨天皇御宇弘仁年中初置之摸異朝（人主七十三代メ）侍中内侍等職欤被准侍中亦為重任内侍者宮内侍（寛内侍又ハ尚侍ト云）之代或有貴之時古（先道ノ世ニ貴ヒシ）者宮者任也或有卑（上代ニハ卑シ）者宮者（コミヤツカイ）任也歟来官者紀事先賢之所譏（或説ニ三字共名シ）侍高力士（唐名文散階見明ラカニシテ朝ニ近ク従三位ニ是不審ナリ）為一品将軍尓降内侍執文武之柄（カラヒツカニヨリヨリカタ）遂七唐祚（ソ）依之（佐階ナク高キ官ニ任ズ）也（ヤ）

云々本朝不必然弘仁（受勅傳ヘシ）従（ジウ）為（タリ）近習（語勅メ宣傳ヘシ）宣傳之職而（蔵人所ノ）卿（左大臣）等一人（シ）為別当（トウ）当（ニ）充大臣為（タリ）剋当是（レ）流例（ウイ）也　四位（ノ）蔵人（ハ）往（ユキ）々納言及侍（習タリ）従（ジウ）為（タリ）頭（トウ）（ニ）近代（モ）（大納言ハ在職歌小納言侍従ハ已前トミヘシ其ハ後ト得ベシ）

侍従中卿（殊ニ）摸補（メ）其人（シ）（六位蔵人ヲ推出メ曰ヒシ）

但（シ）上古有五位（ノ）五位（ノ）蔵人頭（ニ）近代（モ）（ト）モ（ト）ニシ

五位中又摸補（ス）四人（シ）謂之（シ）非蔵人（ハ）六位（ニ）故殿上（ニ）不許而（ルニ）准（ス）蔵人（ニ）故（ニ）玄宗自七（ナヽ）（ツ）（ヤ）（コヽノツ）（ノ）（カ）（ト）（ヲ）（モ）（ラ）（ス）（ン）（ヤ

△蔵人ノ頭ノ首上ヌル位ノ蔵人ハ不及ニ調其外殿上スル人々ハ蔵人頭ノ下ニ列スルコト

人ニ仍殿上ノ事ハ頭已下職事ノ所奉行也依テ之聽昇殿ヲ并ニ頭ニ為ニ貫首ニ雖ニ位階上臈ニ必着ニ其座下ニ是流例也但非參議ノ大弁ハ独リ不着ニ其下ニ云ニ重職ニ故歟執ニ頭ノ事ヲ雖ニ大弁ニ猶シ着ニ其下ニ也

別當二人

為ニ乙卿ノ者一人ニ位ヌルヲ世俗称ニ一ノ人ト者執柄也一ケ人上ノ所称ニ於ニ禁ノ辞ニ大政大臣ヲ

別當ノ上ニ位ヌルヲ補ス之

摂政殿関白殿上ト称之ヲ推ヲメ云殿摂政ノヤ

中ニ殿上ト称ス之ヲ衆中ニ殿下ト称ス之ヲ自ニ往古ニ無ニ異儀ニ

公卿廣座ノ心ヲ

摂政殿ノ下ト云心ヤ

衆中ニ又殿下上ト云自是蔵人ノ自言ナキヲ

称ニ一ノ上ト者執柄ノ外第一ノ大臣也當ニ時ニ別ニ

大政大臣ハ不及申コトヲ五山ノ上上ニ同シ

當ニ一ノ上ニ前補ル也是執柄ノ依テ執ニ天下之政ニ無ニ其暇ニ仍宮中諸ノ事并ニ奏ニ次ノ大臣ニ故ニ

大将ヲ

次ノ人ヲ為ニ一ノ上ト也殿上ノ事次ノ之可ニ知之ニ也

行左大臣ノ事ヲ故ニ二上ト

右大臣ヲ

頭ニ人

私ニ云此ニ人ニ弁ニ方ノ一人近衛ノ唐名ヲ虎賁ニヒラナドシブ役人ヲ羽林方ノ一人ヲ云ヌルヲ是ヲ頭ノ弁トニ云

△四位ノ殿上人ノ中清撰之職ヲ也弁方ノ一人近ノ

侍臣ト八四位従上下共ニ云ヒ三位已上ハ不レ及レ尋云ヘリ又四位上ノ侍臣ヽ四位殿上人ヲヽ三位中將四位下五位下中納言ハ已ニ三位ヽ是三ノ爻兼帶ト下名誉ヽ私云蔵人頭ニテ帶二中將一任中言是ハ三ノ爻兼帶ト至極ノ至ノ爻ヽ是公兼家云若年ノ時ノ爻ナルヘシ

徵司方一人補之常例也仍頭當職之時不依任次着諸侍臣之上有參議必任之仍古来為重職又奉行大小公事之間非器無才之輩不被競望者也以之思之雖未代可謂撰欤

（是ノ頭ノ中將ト云ヽ）（八人ノ内ヘ九ノ下ニ八蔵人頭カ任參ノ後ノ内ニ）（蔵人ノ時ハ上ニツク）（參議ハ必ノ内ニ）（藤原氏ヽ）（蔵人頭ヽ）（參議ニ是ヽ）（ナリ尼ヒヽ可撰ヽ）

為蔵人頭叙三位當帶中將後任中納言猶為蔵人頭是希代之例也

（一條ノ上ハ三位ノ人ニメ中將ヽ）（一將上ハ三位ノ人ニメ中將ヽ）（九条右丞相師輔公ノ三男ヽ）（三位ニ定ヽ）（兼ルヽ言ハ五位ハ三位ニメ官ハ中將ヽ）

五位上故於後任ヽ

廷尉佐是非一ヽ必可昇大臣ヽ○當蔵人兼勘解由次官非ヽ○必可任大納言ヽ八省輔非三ヽ○この任參議ヽ○右是ハ世挍一ヽ奥秘ナリ

（補非三ヽ）

望公者必前ノ弁ヽ是我ノ如ヽ當蔵人ニテ

（ヽ）

五位蔵人三人

五位殿上人中名家譜第殊撰其器用所補之也補當職者次才昇進已為恒規是初ノ五位蔵人ノ出身之初云ヽ常ノ例ニ先

（蔵人ニ補メハ弁ニ任ヽ弁ヨリ參議ニ任ルヽ）（蔵人ニ補メハ弁ニ任ヽ）（ヽ）（ヽ）（常ノ法度ヽ）

故ニ撰當職已為出身之初云ヽ

（五位蔵人ヽ）

任ニ八省輔兵従五位下ヽ治民次任勘解由次官也

（従五位下ヽ）

補五位蔵人次任弁官是頓路也補蔵人

（任ニ公卿ニ陣ノ中務ノ爻有ノ少輔ハ各従五位下ヽ然ニ勘解由ハ頗ル顕官故ニ大中納言近モ可昇ヽ）（大臣迄モ可昇ヽ）（ヽ）（ヽ）（ヽ）

之日帶廷尉佐ヽ兵衛佐是也勘解由次官

（ヽ）（ヽ）（ヽ）

弁ハ大切ノ官ニ已ニ人ノ可撰ニ○廷尉蔵人弁官右是三夏兼帯シ此人必可昇三五ノ人任ニ蔵人頭次三夏兼帯ス弁清撰シ○帝範曰君ハ択臣授官臣ハ量ニ己受職ニ

愛ノ心ハ蔵人ニナツテ廷尉佐ノ兼帯スル(ハ非一朝一夕)勘解由ノ兼帯スルハ非ニ(ト)

(ハ)毛句ニ動シ(テ)深キ上ノ来ル非ニシテロ

(ハ)五位ニ成テ其礼ニ拝賀ニ参ル(ト)漢参ニテ又以前ニ禁色ヲ着テ参レ上宣旨アルシ禁色ハ依ニ位階ニ袍ノ色定ムル禁ヲ聴ハ五ルシ色トムテチリヌキシ紅ヨリウスク深キ

拝ト(ハ)五位ニ成テ其礼ニ拝賀ニ参ル(ト)漢参ニテ又以前ニ禁色ヲ着テ参レ上宣旨アルシ禁色ハ依ニ位階ニ袍ノ色定ムル禁ヲ聴ハ五ルシ色トムテチリヌキシ紅ヨリウスク深キ

ル(ト)宣旨ハ禁色ヨリ前ニ天子ヨリ宣旨アリ天子ヨリ摂関ニ云イ出シ宣旨ヲ(ト)拝賀ト(ハ)五位官ニ内申シ拝ス天子ニ殿上ニテ拝シ(ハ)殿下庭上ニテ拝賀ノ様ハ先ツ(アリ)無ノ様ハ先ツ袖シノベ右ニ右ノ袖ヲ(ト)ウツシ又左ニ(ト)シサムフシニロブトハ天子ノ(ハ)前ナレハ依ニ貴恐テシニロブノ(ト)ナモノ(ヲ)シ堀川百首ニ拝賀ト云題ニテ哥ニ云カシ(ク)ヤ推ノミツヱシ折リ添テ左右ニテツフシテロビケル頂爵ニ巡毎ニ極テ(ハ)有奉ル志五位ニ叙スル藉タシ陣ニ四人ノ下ニ加ウシ故ニ二臈ハ上臈

六位蔵人四人

放埒ト(ハ)馬ニ云ヲ(ト)ヌシ他テ(ハ)越ニ法度ノ(ヲ)ヌシニテ(ハ)越ル(ト)ニ喩(ヘ)ル(ト)ニ(ハ)六位ノ官ニテ吾ヲ法度ナキヲ云シ何ヲモ法度ニ違フ(ハ)放埒ニ(ト)ス(ハ)越シ埒(ハ)垣ニ(ヲ)ス放埒ト(ハ)不越法度ヲ(ト)ヌ(ト)ニ(ハ)行跡ニカヽル辞シ

題ニテ哥ニ云カシ(ク)ヤ推ノミツヱシ折リ添テ左右ニテツフシテロビケル栢木ト(ハ)衛門督ノ(ヲ)ス推ト(ハ)四位シ尤右頂爵ニ巡毎ニ極テ(ハ)有奉ル志五位ニ叙スル藉タシ陣ニ四人ノ下ニ加ウシ故ニ二臈ハ上臈

放埒ト(ハ)馬ニ云ヲ(ト)ヌシ他テ(ハ)越ニ法度ノ(ヲ)ヌシニテ(ハ)越ル(ト)ニ喩(ヘ)ル(ト)ニ(ハ)六位ノ官ニテ吾ヲ法度ナキヲ云シ何ヲモ法度ニ違フ(ハ)放埒ニ(ト)ス(ハ)越シ埒(ハ)垣ニ(ヲ)ス放埒ト(ハ)不越法度ヲ(ト)ヌ(ト)ニ(ハ)行跡ニカヽル辞シ

弁ハ大切ノ官ニ已ニ人ノ可撰ニ○廷尉蔵人弁官右是三夏兼帯シ此人必可昇三五ノ人任ニ蔵人頭次三夏兼帯ス弁清撰シ○帝範曰君ハ択臣授官臣ハ量ニ己受職ニ

(ハ)愛ノ心ハ蔵人ニナツテ廷尉佐ノ兼帯スル(ハ非一朝一夕)勘解由ノ兼帯スルハ非ニ(ト)

(ハ)毛句ニ動シ(テ)深キ上ノ来ル非ニシテロ

蔵人四人

(ハ)五位蔵人ヨリ任ニ他官ニ也是故ニ以テ頭弁ニ(ト)ス(ハ)蔵人ノ弁ニ(ト)ス(ハ)兼帯ス(ル)ニ(ト)ハ(ハ)香藉其外法度ノ考ニ(ト)ス(ハ)参議ニ(ト)ス(ハ)人ノ内欠ル(ト)ニ

望補此職是為表其才也不錬習奮章不(ハ)五位蔵人ヨリ任ニ他官ニ也是故ニ以テ頭弁ニ(ト)ス(ハ)蔵人ノ弁ニ(ト)ス(ハ)兼帯ス(ル)ニ(ト)ハ(ハ)香藉其外法度ノ考ニ(ト)ス(ハ)参議ニ(ト)ス(ハ)人ノ内欠ル(ト)ニ

(ハ)蔵人ヨリ弁ニ任ス(ル)ニ(ト)ハ(ハ)香藉其外法度ノ考ニ(ト)ス(ハ)参議ニ(ト)ス(ハ)人ノ内欠ル(ト)ニ

家非其器者去之為親撫次佐参議有其職官蔵人頭依之是常例也故也

(ハ)蔵人ヨリ弁ニ任ス(ル)ニ(ト)ハ(ハ)香藉其外法度ノ考ニ(ト)ス(ハ)参議ニ(ト)ス(ハ)人ノ内欠ル(ト)ニ

単有誓古之人(ハ)ル(ト)ニ

(ハ)蔵人ヨリ弁ニ任ス(ル)ニ(ト)ハ(ハ)香藉其外法度ノ考ニ(ト)ス(ハ)参議ニ(ト)ス(ハ)人ノ内欠ル(ト)ニ

補蔵人頭猶帯弁又是清撰也吾雖不(ハ)五位蔵人ヨリ任ニ他官ニ也是故ニ以テ頭弁ニ(ト)ス(ハ)蔵人ノ弁ニ(ト)ス(ハ)兼帯ス(ル)ニ(ト)ハ(ハ)香藉其外法度ノ考ニ(ト)ス(ハ)参議ニ(ト)ス(ハ)人ノ内欠ル(ト)ニ

(ハ)蔵人ヨリ弁ニ任

ニナリ三臈ハ二臈ニナリ末座ハ三臈ニナレ共其下ニ立返テ新臈ト成テ奉公スルレ是ハ非
定例又直ニ預爵有之
○放埒越ト垣ヲ言ハ法度
シ不越人ナリ行迹ニカ
ル辞ヲ官ニ吞テモ越
度ニ何ヌニモハツレサル
シニ

重代諸大夫ノ中ニ放埒有ニ器量軍補之地
紹位階ヲ重進四位五位一度蔵人ノ五位シカケザルハ不親摸ト
下諸大夫多以之為先遂雖五位已後ニ
別當五位十七年又任蔵人五位ニ同五位ナレ共蔵人ノ五位ハ親摸ト
蔵人ノ五位ヲ為親摸之故也蔵人者不依年
齢老サニ當冬次第定上下至極臈者必
預巡爵若有奉公之志者除其籍更加末
座也六位蔵人奉行禁中納ニ公事朝夕
是ヲ六位ノ新蔵人トモ云
御膳等事称之日下臈也四人令奉
一日ヲ限上下ノ次第ヲ逐テ輪廻ニ奉
ヘシ奉公可申志有ハ五位ニ叙ルノ色シヌイテ

○末座ト八兄三年巡リ奉テ五位ニ叙ルト云人トモ天子（泰
カヘシテ新蔵人ニ成テ末座ニクワルシ四人ノ末座ヲ
麹塵ト八下メ重ノ服ニ山吹色ヲ上ハ黄ニ中ハ赤ニ是ハ朱雀院ノ
服ヲ召メシテ二スシ良峯ノ宗定ノ袖ヒキ申サルヽニテラヌヤウニテ二スル時ヨメリ

山吹ノ花色衣モ主ハ
誰ルヨベド昔ノ又ロナニ
ノ其時主上感シ玉ヘハ
良峯俄ニ驚キ名悔
ニケラルレバ不苦由
レテトヽメラルヽ
ヘシ麹塵ノ證拠

行故也六ノ位職事又聽禁色至極臈者着
變塵袍是申下御服之儀也晴時雖下臈
一変極臈ニテ三年ヘ奉
ハ上ヘハキニシコハアカクテクケバ色ノ八カニ
着之第二臈称之差次第四称之新蔵人
ニ四シヨヘハ初ハ不及言ニ三ハ中
ニ五返テ
未座ニシ
氏證拠ニ着
ルシ

也
蔵人頭二人五位蔵人三人六位蔵人四人非蔵人无数加ニ名字ノ昏

非蔵人無員数
ノ属ニアタル
重代諸大夫中ニ未補蔵人之間先遂昇殿
此ヲ云ニ非蔵人ト又云ニ非職之者不奉行公事
六位ノ蔵人ノ戒ヲ大夫ハ非ト

上卿奉勅ノ宣ト八官位ヲ呑出ス旨ヲ呑様ハ先口ニ納字ニ上卿ト カク其ノ次キニ日サゲテ大字ニ大納言ナギ(ドン)ト カクヘシ此時走廻リ司ル者ヲ ド任ナド、カク次ニアゲテ大字ニ奉勅ト カク上卿奉勅一ツ位ニ呑シ奉勅ノ下ニシツサゲテムーナド、呑ヘ弁ノ呑ヘストモ ノ宣ト八内侍ノ如ク官ヲ呑テ八勅ヲウケテ口ヅヽ如此出納ノニイ出ス而ルヲ出納ノ語取テ戟ス方ヘ何モ何ノ官ニ任セ(ラル)ヘキ(ヤ)ヲ(ヤ)ヘ(ヤ)ヘ(ヤ)ヘ

二名乗侍ル言ハ記ス其名於藉仍テ有勅問不拜尊顔只被呼其名是ヲ名ク上古ハ國ノ名ナシ中淤ハ今ノ大和山城ノ辺ナルベシ

東待賢門
南朱雀門　是四門也
西藻壁門
北偉鄙門

東道
南道　道　是四道將軍
道

ハ軍ヲ下スノハ今ノ如シ國司ノ赴ク初ヲ起ト云中古ハ國司ト云今ハ國主ト云ヒ國司撰ハ不倉ノ國ヲ貢民私ニサク撰民海治國

神武天皇即位之初繼神代之跡都日向地神五代第四王子ノ母ハ玉依姫ニ辛酉正月一日ハ即位ニ

國宮崎宮此時天下導邪封域未定東征之後初平中洲定都於大倭國橿原宮ニ

來漸四門朝八方歴代因准漸開諸道第

十代崇神天皇十年遣使四方所向皆ハ開化第二ノ王子ニ

臣伏同年十月更命四道將軍進教ト云ヒ

天子ノ臣トヨリ随ヒ云ヒ

第十三代成務天皇四年始定國造同六

ニノ兌方重アレヒ云残スト云心ニ管領ノ出馬トユイ云方進發ト云ニ

クニミヤツカサ成務同ニ國守ニ一司ニ

治大國若亨鮮注ニ云鮮小魚ニ亨小魚ニ不去膓不去鱗不取撓恐其糜治國頃ハ則下乱治身頃ハ則精氣散去ニ○花子至ニ治大國如烹鮮ト云ヘリ鮮ハイカニモケイ

ト許侯ノ心ヤ
ートハ一騎當ケノ心ニ
イメモキ戦トニハ同ニ

爭始分國境國造乃國司之名後改云守

中古ニハ云ーニ

也仁國司之撰和漢重之此云熹鮮之職

歌建吾勇先ツ令ム達他人ト云心ニ

又云分憂之官漢宣帝常称曰与我共治

民ノ憾ヲ分ケ我ガ憾トスルニ寛厳ノ世ニモ是耳而ヤメリトニ

者唯良二千石之重

西直ニメ元私ニ

寄察百姓之寒非廉吏之所可企望故

常ニ賤シ冗ニ

昔時國設格勧治否合格者褒賞遠

試器不器ニ

配擇良吏也

土地ノ司ルノ吏トニヽヨキ吏ノ撰ト云心ニ

国立国会図書館　タイトル『職原抄』　請求記号 WA16-116
ガラス使用

爰ニ于守介兼国ノ三
于六十六ケ国ノ知セン
カ為ク

大國（タイコク）

守（カミ）	権相當	従五位上	介（スケ）権相當 正六位下
目（サカン）	大従八位上	少従八位下	掾（ゼウ）大正七位下（上ノ権） 掾小従七位上権（タスケルニスクウ）

上国

守	従五位下権	介（カミ）	従六位上権
目（サカン）	従八位下		掾 従七位上権

大上國

守相當五位也依之其身雖六位

除目ノ時執筆之人押（シテ）テ吾（ワカ）従五位下（ト）不（ル）待勅処分（コトワリヲカツ）ク者也

中國

守（カミ）	正六位下	介（スケ）官位令（ヤウニ）中（ナカ）掾 正八位下	
目（サカン）	大初位下		

（九位ノ別名ニ国ヲ守ル）

下国

（下国ニ元介ノ諸司ノ心ヲ大小公廨寮ノ心ヲ中国ヲ令ル二ハ下与中同ヲ令ル九位ニ）

守（カミ）	従六位下	掾 従八位下	
目（サカン）	少初位下		

国立国会図書館　タイトル『職原抄』 請求記号 WA16-116

ガラス使用

○別貢ト八親王ノ臣ニヒトハメ云テアガル是ヲ上
上野上総常陸此三ケ国ヲ介ノ頭トヨム又介ノカミトヨムニ八アラズカナミカミトカクトモ云
（官ノ誤リ）
説モアリ又介トカクト
説モアリトゾ
○大守八諸国ノ守ノ唐名
ナレド常陸上総上野ニ
ニ限テ大守トヨベシ
王任ジ故ニ余国ノ
トヨベシ親王任ジ
国ノ太守トヨベ
ドモ此三ケ国ノ守ニ介
皆シ親王ノ奉ズ
吏務ノアツカウ
ヲ司ハ相当五位ニ
テ四位ノ不可任然
ドモ其人武藝勇猛ナラ
バ下官ナレド任ジテ不
君ニ國ノ徒シ

○権ノ守トハ本ノ国ノ守ハ在京ナル故ニ権守下リテ
臣定家ト吾實名ノ以已上四位三位ニテ任ズルハ藤原朝
○大臣大納言左遷ノ時
諸国ノ権守ニ任ズ
ル其ノ位ノ次第ニ
トヘヨテ是ノ如官
放トヨ官ハ自下進
則上下ニ剥ハ遷
遷トヨシ
明雲座主配
流ノ名守ノ藤井
○按ト名付テ流シ
座主ニテ流セバ
松枝ハミナサカモギ
ナレハラク山ニハザラニ
ベキモノナレ又明雲ト云名ノ唐人見テミヤウハ
必名ニ宮ニアワントシ○又配流ノ時七種ノ義式アリ一ニ畳シカイサニシク二ニ膳ニ柳

別貢ト八親王ノ臣ニヒトハメ云テアガル是ヲ上
上野上総常陸此三ケ国ヲ介ノ頭トヨム又介ノカミトヨムニ八アラズカナミカミトカクトモ
（官ノ誤リ）
説モアリ又介トカクト
説モアリトゾ

○大守八諸国ノ守ノ唐名
ナレド常陸上総上野ニ
ニ限テ大守トヨベシ
王任ジ故ニ余国ノ
トヨベシ親王任ジ
国ノ太守トヨベ
ドモ此三ケ国ノ守ニ介
皆シ親王ノ奉ズ
吏務ノアツカウ
ヲ司ハ相当五位ニ
テ四位ノ不可任然
ドモ其人武藝勇猛ナラ
バ下官ナレド任ジテ不
君ニ國ノ徒シ

○九ハ国司者相当五位ニ下也然ニ而雖四位
已上或隨其望或應其撰言来之例也或
（ナホ）（ニ）（ス）（ニ）（ス）（ル）
（ニ）
（ニ）
（ニ

筋ヲ置リ、三ハ左リ前（ニスルシ）四ハ配所ノ歌昏ク硯水ヲ提ノ口ヨリツノ六ハ渤（コヲ）
スルヲ坦板ニテ切リシ七ハ車ニ遵ニ乗リシ故ニ手生忌ヲシ

畿内（キナイ）五ケ国

畿内（キナイ）此（コレ）ニ五畿（キ）ト近（チカ）シ大和（ヤマト）ニハ大和（ヤマト）ト唐（モロコシ）ニハ大和（ヤマト）ト訓（ヨム）シ
山城（ヤマシロ）唐（モロコシ）ノ雍州（ヨウシウ）ニ當（アタ）シ　上（カミ）大和（ヤマト）河内（カハチ）大（オホキ）和泉（イヅミ）下（シモ）摂津（ツ）上（カミ）

東海道（トウカイダウ）十五ケ国

伊賀（イガ）下（シモ）　伊勢（イセ）大（オホキ）　志摩（シマ）下（シモ）　高橋氏（タカハシシ）為（ナル）内膳正（ナイゼンノカミ）ト
尾張（ヲハリ）上（カミ）　参河（ミカハ）上（カミ）　遠江（トホタフミ）上（カミ）　駿河（スルガ）上（カミ）　伊豆（イヅ）下（シモ）　者倭之仍不任他人ノ
甲斐（カヒ）上（カミ）　相摸（サガミ）上（カミ）　武蔵（ムサシ）大（オホキ）　安房（アハ）上（カミ）　淡（アハ）大（オホキ）　人皇六代孝安天王四十四年人富士中涌出スル
下（シモ）　絃（イト）大（オホキ）　常陸（ヒタチ）大（オホキ）　有大守（カミアリ）

西国受領ノ外ニ赤置

鎮守府（チンジフ）遠国（ヱンゴク）ニメ遣（ツカハ）ス臣（シン）起（オコ）シ故欤奥佐実佐（オクサノスケサネ）ナンド、テ朝敵（テウテキ）アッテ度々軍（イクサ）アリ故ニ并テ置（オカ）ヽレシ○説文ニ貢ハ献（タテマツル）ノ言（コト）ヲ者（モノ）シ

東山道（トウサンダウ）八ケ国

十二郡（コホリ）八陸合（ムツアハセ）廿四郡（コホリ）ヲ湖（ミナト）ノ人王七代孝霊天王五年ヨリ始（ハジマ）ル

近江（アフミ）大（オホキ）　美濃（ミノ）上（カミ）　飛騨（ヒダ）下（シモ）　信濃（シナノ）上（カミ）　上野（カウヅケ）大（オホキ）
下野（シモツケ）大（オホキ）　陸奥（ムツノクニ）大（オホキ）　出羽（イデハ）上（カミ）

陸奥出羽按察使（アンサツシ）府（フ）ノ政所（マツリゴト）也

按察使（アンサツシ）相当従四位下（ジユシヰノゲ）ト云（イヒ）シ

唐名都護（トゴ）

兼之

陸奥（ムツノクニ）

鎮守府（チンジフ）ノ官（クワン）ニ将軍（シヤウグン）副将軍（フクシヤウグン）ヲ見武（ケン）（頭當（トウタウ）ノ若（モシ）ハ正将軍（シヤウグン）ノ闕（カケ）ル時（トキ）ニ替（カハ）テ行（オコナ）フ事（コト）ヲ用（モチヰ）ル）々監軍（ゲングン）（屬（ゾク）ニシテ軍（イクサ）ノ事（コト）ヲ助（タスケ）ル）曹（ソウ）陸奥（ムツノクニ）（軍（イクサ）ノ事（コト）ヲバ取（トリ）軍（イクサ）ヲ治（ヲサム）ル者（モノ）ニハ如大将軍（ダイシヤウグン）ヨリカミニ有（アル）ツカ者（モノ）シ）

国立国会図書館　タイトル『職原抄』　請求記号 WA16-116
ガラス使用

遠国又ハトリモナホシ心ヒロキ心シ又ヲ要ノ心シ

者上古以来為ニ遏ニ要ヲ為其国境ヲ廣元明八四十三代女帝シ天智弟四シ皇女シ

皇和銅五年九月令ニ置ク出羽国ヲ元正天皇四十代文武天王北姉シ

養老二年置ク按察使ヲ令ニ監ス察セ両国ノ事ヲ聖武

天皇元年陸奥国内又置ク鎮守府ヲ令ニ国相ヲ鎮守府又安察使

奥羽ノサカイニシテ

並ニ令ニ行ハ国事ヲ云シ

私ニ云秋田介ヒ城介ヒ云シ

秋田城

介ヲ為ニ出羽ノ介ヲ者モ兼ヌ之ニ隔目

不任之被下ー宣ヒ也

北陸道 七ヶ国

ハ秋田ノ城ニ

裏近キ故ニ為防

守ヲ司シ置シ必

宣旨アリ治ヨリテ

若シ又サモナキ時ハ出羽介兼之

若狭中 越前大 加賀上 能登中 越中上 越後上

佐渡中

山陰道 八ヶ国

丹波上 丹後中 但馬上 因幡上 伯耆上

出雲上 石見中 隠岐下

山陽道 八ヶ国

播磨大 美作上 備前上 備中上 備後上

天武ノ帝ヨリ起シ

安藝上 周防上 長門上 ㊀八達ノ

南海道 六ケ国

紀伊上 淡路下 阿波上 讃岐上 伊豫上

土佐中

西海道 十一ケ国 就中而三九国二嶋除二壹岐対馬ノ

十六ケ国也 九国二嶋ノ総守護ノ

大宰府 帯ス筑前国ノ當ニ唐ノ大都督府ノ唐ニモ西国ニアリ唐ノ紫門ノ西ニ在ノ

聖武天皇天平十五年始置筑紫鎮西府ノ

聖武ノ前ニ太宰府ト云官アリ一聖武始テ鎮西府トメノシテ始メテ九ノ

旅ニ六年ノスニイメ都ノヲブリワスラレニケリ 大遠ハ遠国ノ故ニ上リ一年下リ一年合

ニ説多シ七年ト云時ハ生得任限五年十云ヒ筑紫ハ遠国ノ故ニ上リ一年下リ一年合

限四年ノ総ジ八任限五年ノ又ハ六年ニアリ依テ

万葉集ノ哥ニ天遠

ラ七年ノ 経信卿国司ニ下リシ時任吉ノ津国河尻トヨメル

云六年ニテ君ハキニサン任吉ノ待ベキ身コソイ

上下一年ト関ヘタリ

太宰ノ

帥 唐名ハ都督ノ相當従二位ノ是ハ延喜ノ御門ノ時

太宰任限為五年ト云ヘル也 四位以上ノ呉ノ字ノ付シ

国ニ嶋別帯筑前也 天神ノ筑前太宰府ニ流玉フ是ハ延喜ノ御門ノ時

ノ哥ニ云作ル尼又モヤケナン菅原ヤ棟ノ枚タノ

多ハ是ニ有品親王任之 四位二位ニモ進玉フ有品ト云

有品親王ト云ヒ三位ニモ二位ニモ進玉フ有品ト云

ガ知ルヽナキ時ハ正ガ知ハ是以亘キニ随可ト云

品ト八王子生レ給

玉ヘハ八五位ニ是ヲ无品ト頼ヘ太宰ノ

トヨメル元服シテヘハ四

位ニ任シ玉フ時有

国立国会図書館　タイトル『職原抄』　請求記号 WA16-116

ガラス使用

若大貳知府務而已

権師　納言已上兼官者任之中言以来
薨之大事（納言停任之）

創於正帥者擬親王官兼府務人任権也
（権帥ハ権ニ先クル本官ノ人ヲ云）

或又任正依時宜欲為大臣之人左遷之
（俸禄ハ不食）

時任権帥先而不可知府務也凡於帥者
（帥ノ）

令条所定也已為高官仍重其仁雖花族

又任之

参議散位吾ト云ハ前ノ参
議ノ四位ノ散ノ三三
位ニナルシ云ト
心欤

散位吾ト云ハ前ノ参議ノ四位ノ散ノ三三位ニナルシ云ト心欤

浦モ諸人ノ
一ヒ云家ヤ
一玉ウ間恐
又ト吾シ故ニ人
ノ文ニハ大浦殿
一シ吾方ヨリハ大
ト吾ベシ

浦モ諸人ノ一ヒ云家ヤ一玉ウ間恐又ト吾シ故ニ人ノ文ニハ大浦殿一シ吾方ヨリハ大ト吾ベシ

哥ハ式ア治ア兵ア
民ア刑ア是ト玉葛ノ思ノ
源氏物語ニモ云浦ノ大

哥ハ式ア治ア兵ア民ア刑ア是ト玉葛ノ思ノ源氏物語ニモ云浦ノ大

大貳
（ダイニ）
（シイノスケ）
大宰帥

無権官相当従四位下也唐名部督

近代例多以参議散二三位等任非参議
（散二三位ノ云ノ上ノ小書ニ見ヘリ）

四位モ又有其例有権帥者不任大貳任大
（ハ三位ノ大貳上ハ一方ヲ先任スル例シ）

貳者不任権帥雖無其聞而為流例多是

貳者不任権帥雖無其聞而為流例多是

少貳
（スケイスケト訓ス）
是助ニ同ジ

有権官唐名部督少卿

相当従五位下唐名部督少卿殊叙其人任

相当従五位下唐名部督少卿殊叙其人任

監
（ゲン）
（ニタクヘ）
大相当正六位下唐名部督郎中六位侍
（太宰ノ大ニ当リ）
少相当従六位上
（太宰ノ少ニ当リ）

監大相当正六位下唐名部督郎中六位侍
少相当従六位上

私云太宰府ノ大監少ニ

国立国会図書館　タイトル『職原抄』 請求記号 WA16-116
ガラス使用

任之

（属し）大相當正七位上唐名都督録事

典（ナシ）少相當正八位上

（太宰大リ少リ）監典者公廨給時間雖（ナシ）請任之（ナシ）多是府中

（給時ト八院官大臣納言參ノ封戸職田ヲ給ヒ行時ニ）

有緑之輩任之称府官是也此外博士等

師（ナシ）大唐通事（ツウジニハカセ）亦（ナシ）任之中言以来斬絶仍

（和漢ノ詞ヲ通知ス）

畧之

（太宰ノ所管ト雖受領ノ守助ノ如ク）

筑前　上雖為都督所帯　筑後　上　肥前　上

守以下官如例（食封ノ如ク）

（元重ノケカキニホノメケリアルコノ）

（太宰ノ下司ニ古ハ有之今ハ絶タリ）

（外官ナレドモ是迫ハ文官ニ例ス又以武治国故武官ニモ文武對ス）

薩摩　中　課之（ナシ）九國ト

壹岐（イキ）下（ツシニ）對馬　下　課之（ナシ）二嶋（トウ）ト

已上諸國司課之外官（ゲ）而文官之烈（レツ）也

諸衛（エ）私云六衛　人王五十八代孝徳天皇天平神護二年置中衛同六年改中衛為右近衛

府也　大同二年置中衛同六年改中衛為右近衛

親衛ト六右近衛ハ門内ニヰリ左右兵衛ハ門外ニヰル門内ニヰリ左右共ニ（左右衛門ノ二字ヲ略ス）

（五十代桓武帝ノ王子ニシテ）

元者中衛也　平城（ナラ）天王ノ字大同二年ニ中衛ヲ被置ヲ

（皇ノ名ヲ或人云六衛武官ニメ晉負矢ヲ）

（ヤヲヒ負ノ例ニ羽林ノ故ニ字ス）

（中衛ナリト八四十八代称徳ノ字天平神護二年ニ近衛府

（ヲ置其後五十一代平城天王ノ字大同二年ニ中衛ヲ被置ヲ

（中衛府ニ其名改中衛為左右衛又改神護ノ近衛為

左近衛トニシ

府ト如此メ左近衛府ハ今ニ在リ

太宰ノ博士

太宰等師亦有此

職大唐通事

国立国会図書館　タイトル『職原抄』　請求記号 WA16-116

ガラス使用

大樹ト八濱文帝周悪史ト云人細柳営ノ将軍トメ臣国ヲ治ルニ亦随ヒ高頬不務忠世上人ハ忠ニ誇シ八頬ハ大樹ノ下ニ去テ吾故ニ為ニ大樹将軍ト云ニ

○大将ニ自ニ大納言任之 重熙 執柄息 自中納言任之

夫皇衛守大同二年勅近衛ニ中衛ヲ為右

近衛府唐朝殊重ニ此職ニ統領諸宿衛禁軍

故也本朝又為重任ト

當頭ニ

大将相自従三位唐名羽林大将軍総取将

常云幕府又幕下又云大樹

是八武官ノ極ニ大臣ハ文官ノ極ニ昔ヨリ其家中ニ絶サルニ似タリ又大将ノ名重然是ハ

○幕府ト八人ノアツマルヲ云ニ幕ハ将軍常ノ居トテ何方ニモ幕一帳ヒイラヒ合

軍之称也非譜第之花族者更不任之多

禁中ニ大将ノ宿衛ハ左近衛ノ大将右近衛大将

○上臈ハ納言ノ上ノ又花族ニ家ノ重ニ大将ニハ執柄ノ息ヲ任ル先大臣ノ右大臣ハ少卑ニ

是大納言中譜第上臈任之於親柄息者

治天下ノ万事ヲ

執柄ノ息ヲ任ル之

超次所任也又多被任左也至大臣帯為

生得ハ大納言ヨリ任之

宿衛ハ朝敵近国ニ起ル時ニ禁中ニ兵杖ヲ帯スル軍ニ六衛府ノ程ニ大将ト

給テ只人ニ成ル時源氏タルヘキ由ヲ定メ玉フ又親王源氏ノ其身ニ玉ワル一世ノ親王ノ子ハ二世ニ○童朝桔野ノ葛ノ襲ト云題ニテヨメリアサヒサス桔野ノ葛童雪ヤ

○大臣童子朝臣

石将頼朝二男母

工藤四郎判官女ニ

ニ京極大殿師

男ニ

親摸ト又中納言任之於凡人旅為胥ニ用参

至テノ上至極ニ其故ハ武ノ両道ヲ極ニ

議時任例後二条ノ閑白師通公也近代不

参議ニテ大将ニ

可有此比量者歟又任大将人其後大器

同ニ大臣只守位次着座許也其外作法ハ不

混余人者也

ト作法ハ大臣大将如大臣大将ノ位ハヒキヽシ大臣ト大将ハカニ中将ノ上ハスケノ心ニ

中将権中将相当従四位下唐名羽林中郎

将又ニ親衛中郎将或ハ云虎賁中郎将ト

ト武勇ニトル尚書ニ虎賁三百人ト云シ

花族四位任之執柄息者一世二世源氏

ト八親王源氏ノ其身ニ給ニ其子ハ二世ニ

国立国会図書館　タイトル『職原抄』 請求記号 WA16-116

ガラス使用

清花ノ人参ル者ノ時兼ネ上ハ中將其家ニ任ズル官ノ代々傳ルベシ其官三代不任中絶スレバシルトメラルベシ三位中將原ニ位頼
(ママ)
忠未參四位ニシ時有哥人志礼奴大内山山ハ指隠礼手耳月越
或此一首奉進
中段ニ四位ニ至四
其時五位六
ベシ不肖
ナモ不殿
參四位ニ至
有哥云參
ナケレハ本ノ
シヒロイラ世
或此時任ニ位
ル第ニ有中將兼
此心是ヒ白菊必被手
霜ニ后ニ江ニナレノ是人初ハ位俗ガ老后ニ三位ニ上ルニ比ス

中納言時兼ノ之 凡人ノ兼ノ之実朝云是也非
(三家ヨリ已下ノ頼朝ノ次男ニ母ハ比企ノ春四郎ガムスメ)
常之極欤清花之人 參議時兼ノ之中絶家
(花族ノ三家ノ一ト八任ル来家中絶
右又前三ハ由シ云テ任ハ毛含ル)
兼帯ハ為手念後也二位三位中將非大臣
任中將位計テ三ニ進ル小大臣ノ子孫ノ
子孫者不任之至二位中將者執柄息
(花族ノ三家ノ一ト八任ル来家中絶
右又前三ハ由シ云テ任ハ毛含ル)
外希也五位時任之執柄息外不可然
(摂家ノ方ニ)
云ヘ英雄大臣息任之近代事也非大臣子
(三家花族上臘ル五位ニテ四位ノ中將ニ任ル前ノ心ノ含ル)
孫任之隆房卿等是也其外旌鉾非英雄
(タカフサ)
一ハ平相国大政入道ノ婿ル時ノ以権威任之又其後被任
右大臣一時ノ落胤ノ哥云ル
(隆房カ妻ハ三十九ナリケリ四十八ドゲシサヘ大臣トヨリ)

重代ニ拝任家有之

少將権少將相當五位下
助ニシ唐名刑林次將親衛即將
五位殿上人中為譜第云達者任之叙四
位時去其職但叙労殊恩也近代毎人叙
(少將ニ)
又高位ヨリモ九下ルモ
尚又四位後拝任又常事也三位少將者
(四位ヲ叙ル又ハ
三位ニ中將ハ
頭ニ任ル)
執柄息常被任之又藏人頭時為少將是
(少將ノ兼ル八
攝政ノ子ヲ)
亢倒也又弁官兼之云達中有之名人事
(是ハ弁ノ次將ト云)

少將ニ頭ヒ
ハ是ハ摂家
家ノ公達
ニハ難成
ル陸奥
ニヨリ度々
ニヨメリ老ノ
ク思イツヾル心
セキモナカバナリケ
角様ニケレハ天子関
及サテハ位ノ進度思
ヤトテ陸奥ノ四位少將
ニナシ玉フニヨテ悲シ苦
次郎ハ弾正小弼ニナシ玉フ又何モ自古河御ナシ尾申侍ルニ
老人頭ニハ中將任ニ少將任ニ老人頭ニ摂家息計ニ○諸官任付ノ官ハ必叙留スル

○左近右近ノ将監ヒ諸大夫叙五位ニ猶将監ヒ
ハ不叙爵ニヤヒヒタルシハ執ヒ故実ト
アル官シハ何ノ家ニモ
執ヒ又フルキモノシリガ
官ニナルゾトシル乃諸
人ハ執ヒ左右ヲ近
首アリ左右ノ近
ヤリ六衛府
リ左近ノ
ワスレヤ
ナシサキニ
ヲシタケハナ
ニ源三位
帥官ニ居テ
ヨメリ尼ニヘリ
ヲ述懐メル
○又云人ヒシ又大内山ノ
是ハ前ニ見ヒ

将監

対ニ当ル

相当従六位上
唐名親衛
叙爵ス

六位諸大夫任之五位時叙爵随分執之

音律ノシ知レ者ヒ

舞人楽人等

ミヒト　カクノミヒト

任之即又叙爵定事也然而

舞人ノ余人ノ官ニ定ル故ニ叙爵ス諸官其家

諸大夫者執之是各守故実故也六位侍

旧例ニモトノモノヒリトヨム

ヒ子細ニヤヲ叙爵ヒ

侍

侍ノ将監ニナルヲ官ナリトハ不ニヤ

任事也

於叙爵者更無其例

少納言

少将ニ

兼任又希例也

尉

ヒ

小舎人

ヒ

随身

ヒ

内裏

ニ左近ノ将右ヲ橘右近ノ橘アリ
府生ハ舞人以下ニ内相当ヒ左右近衛府ノ下司ヒ番長ヲ同ヒ

将曹

サフ

相当従七位下
舞人楽人近衛
府生

ニヤウ

府生

ニヤウ

番長

バンチヤウ

衛士

エジ

近衛舎人

ツカイ

使

ツカヒ

大将

ダイシヤウ

大臣

オホイマウチギミ

左右衛門府

左右兵衛府

左右近衛府

左右馬寮

左右兵庫

左右衛門

左右兵衛

左右近衛

左右馬

左右兵庫

左右衛門府

左右兵衛府

左右近衛府

左右馬寮

天皇御宇弘仁二年十一月改曰衛府

督一人 相當從四位下 唐名金吾將軍 頼朝一男

督中左右各一人 掌帶仗衛門督者爲中納言參議之人兼之 頼朝ノ長子

次佐 掌使宣而啓補

代無非參議任之例 但頼家朝臣任右衛門府右兵衛府 依武功也

門督一員 侯欤 四府中殊執之 右衛門督者 中納言參議ノ左衛門督ヲ云

雖非參議任之 但近代無非參議四位任之例

副將軍 唐名金吾次將

佐一人 相當從五位上 唐名金吾校尉 五位殿上人任之

權佐一人 日勤一平 今案諸家譜第択其人任之 必蒙使宣旨又必可補藏人故也

大相當從六位上 唐名金吾校尉 少相當正七位上 顯官也仍六位諸大夫并侍允可擇其仁也 近代不及是非 不択任スルハ無念ナリ 沙汰可誤無念 其中蒙使宣旨者至今爲異 是ヨリ廷尉ノ尉ニ任ルゾ 他之後又五位後叙

国立国会図書館　タイトル『職原抄』 請求記号 WA16-116

ガラス使用

延尉ノ尉ニ

当検非違使之外未聞其例

當官ノ志ハ必検ノ志ニ任スルヒ検ノ蔕ハ左右門ノ右ヲ武ヲ府生ニモ有生アリ

志 大唐名金吾録事 少見ニ検非違使蔕 府生 唐名金吾衛史 或云弩門衛史

尤右兵衛府ノ唐名武衛 督一人 相當従四位下

中納言參議散二三位非參議四位等皆

四位ヨリ三位ニ可叙ノ時分ハ三美散ト云ヒ

任之

佐一人 相當従五位上 唐名武衛次將 権佐一人 卫位殿上人中可兼之 準任之

花族ハ直ニ次將ニ任故強テ不望之

但英雄強テ望之即任ス將故歟

尉 大 相當従六位下 唐名武衛校尉 ユイカウイ

少相當正七位上

六位諸大史 并 待任之 自當府尉多兼衛門也 諸大史不必然

非要官ハ肝要ノ官ニハアラネトモ故ニ六衛府ヨリ外ハ不任之

志 大 唐名武衛録事 非要官仍府官之外強

肝要ノ官ニアラズトモ心ノ

不任之

府生 唐名武衛史 在兵ノ右兵ノ右ニ也 同前

三寮ノ御馬ノ主ハ左右馬寮

ノ馬ニ司ノ厩自ニ諸国ノ牧駒牽上テ昔ハ四季ニ參ノ田ヲリ迎代ハ一年ニ一度八月十五日ニ駒迎トテ殿上人相具ニ出自東国ニイリ聚メルノ馬ノ奉分トテ上皇親王摂政関白大臣ナトヘ給ヒ順能ノ在位ノ時右鳥羽院着我ノ栖霞寺ノ庄

衛門 大史ハ ニ結ヒ

ウツヲ又 労故

史ハ當官 者ノ補ニテ

アリ侍ルニ奉分ノ勅使ニテ定家哥ニ差我ノ山ノ山ケ代ノ古道アトヘメテ又アラハシ望月ノコマトヨメルハ本哥ニハサガノ山ニユキメグリシセリ川ヤ千代ノ古道アトハアリケリ又云哥相坂ヤ関ヨリサウニ唐名典厩キウ清水ニ獣見エテ今ヤヒクラン望月ノ駒

左右馬寮リヤウ 唐名典厩キウ 四位五位中可死之

頭一人 相當従五位上 唐名典厩令

掌任之 知ニ寮務ヲ時ハ兼テ為ニ重職

権頭一人 五位殿上人諸大夫共ニ任ニ於諸

大夫者ハ為清撰之職ノ

助一人 権相當正六位下 唐名典厩少令

其撰超ニ于他諸司助也 五位諸大夫任之

相當六位ナレ共叙ニ従五位ニ故ニ

五位任之 大夫 備眉 黒ニ五位ニ任ル為ニ面目ニ

目者也

諸寮ノ助ノ中ニ當官ノ助勝レタル

何ニ禁ニ制ニ護ニ異敵ニ

赦ス京洛ニ

八改ニ云ニ外武

卑是懲メ始ニ

晉ニハ渓朝ト

又シ引改ニ渓ノ

又シハ神晉ノヨミニ神ニ

シハ神晉ノヨミニヨミ其

ニシハ有戒ヨミニヨムニ

渓朝 祈晉 有戒 哥道

各有読典ニ

允大少 唐名典厩 掾

属大少 唐名典厩 典厩主ニ従トイフニアリ 掾

伝侍任之 瀧口給官時任允是例也 前ノ瀧口ニ処ニ有官ノ瀧口トアルハ是ニ

内裏ノ未申ノ方ニアル蔵ニ重宝ノ武具等ノ倉ヲ司ルニ亡者ノ日並ニ

兵庫寮リヤウ 唐名武庫署ショ 兵器ノ美ヲ置倉ニ

頭一人 無権官相當従五位下 唐名武庫令

任之

允大少 唐名武庫 掾

旬會ニハ大将旌ヲ曰建ニ立ニ戟ヲ門ニ左右ニ

国立国会図書館　タイトル『職原抄』　請求記号 WA16-116
ガラス使用

助相當正六位下唐名武庫少令
六位諸大丈任之
允大唐名武庫丞
少六位侍任之
屬大
少唐名武庫主事
ト申スハ天[redacted]照大神ノ御子ニ正哉吾勝々速日天忍穂耳尊ト申ス是ハ天孫ニ又天照ー孫ニ又香取鹿嶋春日三所ノ大明神ニ言詔軍ニニキウルニ
爰大夫獲々杵尊ト申ス是ハ天孫ニ又天照ー孫ニ又香取鹿嶋春日三所ノ大明神ニ言詔軍ニニキウルニ
少健雷
ニ天悉
徴府
天孫ノ御
天子將
ニ斧鉞ヲ玉ワル時ニ
頭ノテン持テ柄ノテン
將軍ニ授ス是ン柄ン
ニ於ト云又天子ノ柄ンヲ
春日大明神ハ鹿島大明神ニ大和国ハ本地王孫大ノ御
ニ云ハ
天子將
外武官
ト八自當官前ハ禁中ン司ニ當官ハ外司ニ設シ
將帥之職古今重之所以分閫外
大將ノ心ニ二字ヒニキウルニ
閫内ー夫子治閫内
將軍ハ治閫外
之權也漢書馮唐曰王者遣將跪而推轂
日ノ閫以内寡人制之閫以外將軍制之軍
ヨリ
ニ
ヲ
ヲ
ヲ

今手ニ諸ノ不順ノ下ハ此様ナル物ニアナシノ付ル八也ヤリ矣ナノニツクメリツケルシ又カメ〳〵ニツロワシノシトヨムシ畢竟諸ノ不順者シトヨムシ心ヤ惣メ文ニ点シスル法アリ鳲鵲スイケクトヨ

天下ノ木ノウラヨリ鵲ナド

天下ノ木枝中程ニ着テ

ヨリ上ニアガルモアリ

法シ字ノ上ヨリ下ニ

子ニ字蘭テ読テ

ニ返リテヨムハ

禾ノ上ニテノメヨ

如シ此ノ点法

リカコ

フ其ノ

ニリ堅

ハラトヨ

於豊葦原中国之時遣征諸王神又云副ノ

立幾内ノ国ニ

取神健雷神香嶋神

是也

令手諸不順者曰云

是也

領ハ十万神ニ永馬皇孫奉護乃還降ル云

天照

日也

大物主神ハ万四千兎類神将

三輪明神ト地ノ八十万神ノ大将ニ神ノ夫

ノ

々一ル書曰事代主

神布都ノ文也

也ト云ニ又曰大伴連遠祖天忍命帥来目

大伴ノ先祖

部遠祖天槵津大来目背負天磐勒靫

三神ハ衛府ノ官ノ始シ

今ノ虎賁也

手ニ提ル梶弓ト八ハジノ木ニ弁ル矢ナドノ如キ持アル弓ノ

其弭レバカタハタバサミトモ子ウケ我ガハゲ弓ノ

ツルノヤシナシケリトモ子ウケトハウラ

ニツルノヤシナシケリト云ニ今ノユカ

ト云ニ令ケ生スル

ド生ト

ノ物語

ト云字

支シ依

悪大神ト吾勝尊ト

ハ天上ニアリナガラ

地神三代猥ケ朽尊

トヨリ天降テ日向ノ主トナル三種ノ神器シ天照

神璽ト八ハ八坂ノ曲玉ト云神秘ノアルニヤ宝剣ハ天照ノ

悉ヘノメカ

忍モサヽ

ノカニ又訪

ハユゴテシ炎拾

クシ

著稜威高鞆手提天梔弓天羽々矢乃副

ハ葉ノカラノ物ノ角ノアルコトシ令神前ノ川ノ長具ニ

特ハ目ノ鳴鏑又帯頭槌剣而立天孫之前

今ノ斧鉞シカモラッケノヤウナル剣シ

云ニ神代之制祖可見矣至于人ノ代ニ

成リトハ

神代ノ時ノ

将軍想可見シ

神武天皇東征之時物部氏祖道臣命為

長髄ノ命対治ニ時将師ニ

武士ノ先祖シ

軍師古孫武士云ニ物部氏起於此云ニ

崇神天皇十年命四

主十六代シ

道将軍遣四方云々将軍之号正起於此歟

其後景行天皇四十年ルニ皇子日本武尊

十二代ノ帝作ノ王子シ

景行ノ御子ニ

トヨリ天降テ日向ノ襲ノ高千穂ノ峯ニアリ

神璽ヨリ外ノ殊ノ襲ノ高千穂ノ峯ニアリ

国立国会図書館　タイトル『職原抄』　請求記号 WA16-116

ガラス使用

為大将軍以武日命武彦命為左右将軍（蝦ノ字ハ下メ云訓ニサル）ハ安禄山ハ羯胡ナリト云カ如シ蝦夷ハ信濃記自ノ緑記自ノ蝦夷ノ墨

東征蝦夷云ニ尓来征行之日命将軍不（遣将軍云ヘリ）千里十三自ヨリ下ハ奥ノ事

可勝計我国平定新羅高麗百濟之後百（言ハ三朝皆随テ懇切ノ義ヲ尽ス日ハ本ノ識ノ日ハ入ヘシ）

濟尤納懇欵依之彼国置日本府遣鎮守（三韓ニ置ハ百濟ハ高麗ノ筈ニ）

将軍治之云々然乃建将軍府之初在此（百濟ハ三韓ノ筈ニ）

乎（日本奥ニ鎮守ノ墨テ任将軍ト云）

等記尚

可勤入（四十五代毋ハ不乱ヲ以テ）聖武天皇御宇陸奥国置鎮守

府初任将軍遣之者是本朝置軍府之初（メ）

天平（羅ト八仲哀天皇ノ御宇ニ新羅ヲ討テ）

寺朋ハ仲哀ノ後神宮ノ皇后（ハ照ニ）

奏国ノ手ケントシテヨ（建御名ヲ）

三八慵漸ク生レサセ玉フワトセシ処ニ皇后勅言曰若妄国可平顧ハ對治メ玉ヘシ（是レ）

レトテ石シ九ラ常ニハサミ玉フサル程ニ日本ノ神達悉ノカタライニ韓ヘ向時妄国ニモ関

地海ニ向ニ行程ニ（ヲ）

普時ニ付シ彼カ様（ニ）

レ体ハ蛇（ト申ス皇后）

彼翁（ト）

中ヤウ（ニ）

ハ先（ニ）

メヤ（ト）

玉ウベ（ト）

ク向妄（ト）

彼申様ハ（ト）

不及御座ル（ト申ス皇后）

胎内ヨリ八幡ノ（ト）

ケアレト被御（ス然）

翁シ先トメ元程ニ（ト）

韓シ平ケ玉ウヤ（ト）

定数一万艘ノ舟シ用意メ相待シ（或神ノ云新羅シ玉ケ可シ八ト申ス陸ノ鹿島ノ磯浦

ノ翁ト云者シ申タノニシロヘト申レケレハ皇后厳嶋ニ宣使シナサル彼勅シキイテ陸

鎮守府

鎮府ノ将軍ニアリ兵ノ吏務ヲ調テ天下エアゲ申メ民シ憐ムシテ要ス

将軍一人　相当従五位上

古来ハ為重寄非武略之器者不當其仁（有朝敵国ヘ将軍下ルシ故ニ何レノ国ト八不定）

仍代々称将軍者鎮府将也中古以来為（陸奥ニ）

陸奥守者多兼鎮府不可必然事欤守者（垣ヲシツムル心）

須用藩鎮之器故也（勇猛ニメ四夷平ケ数送ノ文書上成ヲ可鎮護ヤ）

且択吏幹之才将者（コアレトモ）

又昔ハ並置府国依（鎮守ヲシ）

地広而在邊要以信（ヲ）

○鎮将ハ鎮守府鎮東府鎮西府ハ国ノ守テ其府ノ定ヲ吾シ

征夷ハ奏国ノ敵起ルニ随テ臨時進發ス故ニ定所ニ

（貢ニ）
支郡ノ（イハユル）南祖税（ソゼイ）ヲ（イハユル）國府ノ（コウ）ニ納（イレ）テ
北稲穀（ホクトウコクモツ）ヲ鎮府ノ兵粮ニ（ヘウロウ）ス（見格ニ）又（マタ）遠要ノ
（東西市ノ中ニテ一廣キ所ノ名）
中ニ（ウチ）モ陸奥（ムツ）ハ（為）最（モツトモ）仍此（ヨツテコレ）国（クニ）ニ（昔）置（オク）ノ（ル）五千人（ゴセンニン）ノ兵（ヘイ）也（ナリ）
是（コレ）皆（ミナ）可（キ）属（ゾク）ニ（ス）鎮府（チンプ）ニ（ス）（安保ヲ（ヲ）ハカル二年ト云ヘリ）
（鎮守府ノ事ト云ヘリ）為（タメ）ニ（ス）建武（ケンム）三年（サンネン）勅（チョク）ニ（ス）三（サン）位已上（イジヤウ）ニ（ス）
（九十七代後醍醐ノ年号）
為（タメ）ニ（ス）当府（トウフ）将軍者（シヤウグンハ）可（キ）加大（カダイ）ノ（ル）字者（ジヲモノ）ト（ス）云（イヘリ）
（当府ノ事ト云ヘリ）
司（ツカサ）請奏（コイソウス）ニ（ス）被（ル）下（クダ）宣旨（センジ）ヲ（ス）也（ナリ）将軍（シヤウグン）相当（サウタウ）五（ゴ）位也（イナリ）三（サン）
（従五位上ノ事ト云ヘリ）
位已上（イジヤウ）ニ（ス）高（タカ）ク（キ）職（シキ）ヲ（ス）下（クダ）依（ヨリ）之（コレヲ）申（モウス）ニ（ス）加大（カダイ）ノ（ル）字（ジ）而已（ノミ）
（将軍ノ事ト云ヘリ）

（国府ニハ毛氈ノ官舎ニ公
（廳ニ集ニ政所ニ）
界ハレテ政所ノ（イハヽケノ字ニ）
（一庄ノ名ニ）

将門ハ朱雀院ノ（ニ）御（ヲン）宇（アメノシタ）天慶（テンギヤウ）二年（ニネン）中ニ下総国（シモフサノクニ）ニ於（オイテ）相馬郡（サウマノコホリ）ヲ（ニ）為（シ）
（朝敵将門討滅ノ大将ニ来ル文遠ノ
（秀郷ト云ヘル音上野ニアリ此時在京セリ）
テ）両将（リヤウシヤウ）ノ（ガ）部（ブ）ヲ（ニ）コリ向（ムカヒ）テ（ヲ）玉ヲ（タマヲ）郎（ラウ）遠（トヲ）ク（キ）江（エ）ニ付（ツケ）玉フ（タマフ）ト（ス）又（マタ）秀郷（ヒデサト）
（ト云ヘル音上野ニアリ此時在京セリ）
（ト云ヘル音上野ニアリ此時在京セリ）
（ト云ヘル音上野ニアリ此時在京セリ

然レドモ終ニ関白殿ノ義ニ任セ秀郷ノ功ニナレシ依テ日彼関白十代迄不可栄トニテ我身モ洗ニル様ニ彼跡断絶辛九条殿ハ永ク栄ヘレトアリケレバ八代関ヌイレ及トナレルトニ拠メ八秀郷カ処不及已ニ験シシ取テ忠文ハ将門ヲ忠文ハ将門ハ迫下ルルニテ

征夷使

田村麿ハ伊勢国鈴鹿山ノ女房ト契テ日本ノ鬼王シ対治スルニ改将軍ノ号アリ綿九名乗ニ美我院ノ時ノ人ニ臣下ニ

大将軍一人 征夷者始於大日武尊 毎有之

十二代景行オニノ王子ニシテ雄朝女ハ此女ニニノカアリ此刀シ兼レハ旬已前ノコト

事遣将帥也 粗見日記

聖徳太子ノ

征人或為按察使 或為鎮守将軍 文屋綿

麻呂ハ名乗ニ美我院ノ時ノ人ニ臣下ニ

九 未有征夷将軍号云々 愚案於鎮府

文室ガタハラ右田ノ家ニ小山又赤井ノ両家ハ孫ニ

者已鎮将依之重遣将帥也 臨時加征

鎮守将軍イレ氏ヲ治改ニ重テ将帥シヤルニ

夷号欽坂上田村麻呂 其名尤高

名乗ニ今ノ氏ニ其ハ自是前ニ首脅ニアリ

征東将軍平 是又関白通家云ノ子孫ノ掌寺殿又東福寺殿ヒ

東ニ下向スルハ名誉ニ成ラ云ニテ故申関白ニ

是ハ称別ニハ母方ノ祖ニ

人王八十四代名堀川ニ時頼経シ二任官ト北条殿ト談合メ申下ニ将軍トヤス頼経光明峯寺殿ノ子ニテ

守親王

宮将軍

極ニ兵法ニ人ニ下総相馬郡ニ人ニ母懐妊ニ時服金屑ニ平親王ト号ニ身金色起ニ

将門ハ二品式ア卿菅原ノ親王将門ノ先祖

臣任征夷東大将軍 其弟仲舒源経基為

源ト八ホ孫王卓先親王ノ子ニテ当家ノ先祖

副将軍 後向其後征夷号久以中絶 源義

多田満中ノ先祖

二百年計ニ

陽明門院ノ時ニ

仲朝臣京上 勅執行之権 之日任征夷将軍

義信濃源氏木曽ニ

云々其後又権大納言右近衛大将源頼

前ノ大内言右近衛ニニ右鳥羽院ノ時ニ

朝卿辞 丙蔵帰東国 之後有勅被任征夷

征夷大将軍鶴岡八幡宮ニテ請ニ其時介ノ字シ忍ア三庫ノ悪ニ即ナトニ

頼朝一男ニ金吾将軍ニ

大将軍ニ永来連綿頼家朝臣自ニ廿将之時

ソ社務ニナ

家ノ子次男ニ

スルニ及テ先念

証ニ既ニ我コソ伝

ヘキニ結句社務ニ

ーシテアルハ先念ニ夏ニ然ニ夕暮ニ雪下ニ皈玉ウ時実朝ニ行逢テ両人サシケカヒ

両人ノガラ死ス此言夏ニ依テ辻ガメノト云夏アリ

国立国会図書館　タイトル『職原抄』 請求記号 WA16-116

ガラス使用

先代九代云ハ
頼朝 ― 九条右丞相（右大臣）道家公ノ子息ニ頼朝ノ祖父六条判官為義ニ聟ニ然ハ
頼朝 ― 頼朝長男ニ
将家 ― 同次男ニ是迄源氏ニ
朝 ― 二代藤氏ヤ
是ハ嵯峨院ノ王子ガ

兼ニ実朝ニ自ラ兵衛佐ニ任ジ頼朝ノ祖父六条判官為義ニ聟ニ然ハ
彼流断絶ノ後藤原頼経（持明院ノ子ニ藤原ニ生ニテ関東ニ下向シ嘉禄元年九歳ノ時若宮ノ前ニテ元服ス）ガ後即任ニ其子頼嗣（是モ摂家将軍ニ三代将軍ニ非ス）ガ又任ニ中務卿宗尊（ムネタカ）親王（九十七代後嵯峨院ノ王子ニ）ガ
親王下向ノ後四代親王任ニ元弘一（九十六代光厳院ノ時号ニ）
親王（宗尊ノ舎弟七王子ニ成ル）ハ親王ニハ非ス将軍ニシテ侍ニ非ス征夷将軍ニハアラズト云ヘリ
月被ニ其号ニ享（又）ル頼嗣卿補ニ後依ニ重ニ征夷将軍ニ任ニ
統之初兵部卿護良親王（後上野ノ大守ニ成ル）ガ
野大守ニ成良親王（石南商者ニ）ガ
尊親王下向（宗尊ノ舎弟七王子ニ成ル）ハ親王ニハ非ス将軍ニシテ侍ニ非ス征夷将軍ニハアラズト云ヘリ）
兼ニ実朝ニ自ラ兵衛佐ニ任ジ頼朝ノ祖父六条判官為義ニ聟ニ然ハ
彼流断絶ノ後藤原頼経（持明院ノ子ニ藤原ニ生ニテ関東ニ下向シ嘉禄元年九歳ノ時若宮ノ前ニテ元服ス）ガ後即任ニ其子頼嗣（是モ摂家将軍ニ三代将軍ニ非ス）ガ又任ニ中務卿宗尊（ムネタカ）親王（九十七代後嵯峨院ノ王子ニ）ガ
親王下向ノ後四代親王任ニ元弘一（九十六代光厳院ノ時号ニ）
親王（宗尊ノ舎弟七王子ニ成ル）ハ親王ニハ非ス将軍ニシテ侍ニ非ス征夷将軍ニハアラズト云ヘリ）
月被ニ其号ニ享（又）ル頼嗣卿補ニ後依ニ重ニ征夷将軍ニ任ニ
統之初兵部卿護良親王（後上野ノ大守ニ成ル）ガ
野大守ニ成良親王（石南商者ニ）ガ

其家其職ノ道理ニノ随シ
家勝劣人々存知ス仕道理不レ加今案抑
歴名次第親王公卿諸王諸臣也今又
一人ノ公達諸大夫等分割之也或人請問
在大臣ノコトヘ 自向各ヘ
官位昇進ノ次第欲傳口妄可レ聴訖ハ
澤筆ニ除ムハウルシウヤ 口ヅカラ云ハ其胸中謙ニメ妄ニ
貽年治有勲未者予從生俗塵已移ス十年
秋冬春夏 人道スルノ義ニ又出俗流今ニ心歟
寒暑況在逆旅不蓄一疑之文書每事
荒忽拾似蒙ニ允上章親徐ニ春夾鏡ニ隻旅
辰 独仰ニ心
著如無

一八廛士業心ニツクシナル心ニ士鐫シイタク心ニ

之日旌而深愉節ニシテ終焉被引餘習不顧
後嘲耳

職原抄下終 正平二年十二月一日昏窓之下書畢
権左中弁兼左近衛少将源顕統

一件学院副當変 憤ヲ同勧ニ是ノ然ニ件此ノ字

件字誤分明也可為件字但於愚案件字都ヽ
是ハ典与同ニ字ナルヘシ大ニシテ
不審也為字見及候由存之随而勘當旬宿
旬為俎切詛 詛ノ七字異本无ヽ
大也ニシ 也成也誉也屬也此字義不

別4号
26

的當欤勘養勉奨同上即両切勧也助
也成也參也厲也俾爰導字理明白也異
本在此外无也導学爰理明白也即又被
勘古来篇中抄京中名所之処見勧学二条
坊城

導学院　勧学院　穀倉院　朱雀門
西　前玄三　羅城門

学字爰共的當也

凡墨付四十四枚　付紙一枚

国立国会図書館　タイトル『職原抄』　請求記号 WA16-116
ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『職原抄』 請求記号 WA16-116